

公益財団法人 NIRA 総合研究開発機構
研究コーディネーター・研究員 関島梢恵
(E-mail) skozue * nira.or.jp (* を@に変える)
※北米滞在のため、電話でのお問い合わせは下記の担当が承ります

研究コーディネーター・研究員 鈴木壮介
(TEL) 03-5448-1725 (E-mail) ssuzuki * nira.or.jp (* を@に変える)
(URL) <https://nira.or.jp/>

キャッシュレス決済実態調査 2023(速報)

2023年9月29日

公益財団法人 NIRA 総合研究開発機構

(公財)NIRA 総合研究開発機構では、「キャッシュレス決済実態調査 2023」を実施した。本調査は、2018年に実施した同調査の2回目であり、個人の消費における決済行動の実態を正確に把握することを目的に実施したものである。調査は2023年8月23日(水)～2023年8月28日(月)にかけて行われた。回収数は3,000件で、うち有効回答数(トラップ設問をクリアした人)は2,403件。速報結果は、トラップ設問をクリアした人のみを対象とし¹、「国勢調査(2020年)」の対象のうち18歳以上79歳以下の日本在住者を母集団とみなして、ウェイトによる補正を行った集計結果である²。

なお、本調査報告書の内容、図・数値等の引用・利活用の際は、NIRA 総合研究開発機構(2023)「キャッシュレス決済実態調査 2023(速報)」と明記いただきたい。

¹ トラップ設問とは、質問文を注意深く読まず回答する回答者を検出するための設問である。本調査では、「この項目には、「2. おおよそ違うと思う」を選択してください」というトラップ設問を用意し、当該設問で「2. おおよそ違うと思う」を選択した人の回答を有効回答とした。

² 集計方法については「Ⅱ. 調査概要」を参照のこと。なお、図表では小数点第1位あるいは小数点第2位以下を四捨五入した値を表示している。そのため、全体で100%となる図表において、表示されている内訳の数値を足し合わせても100%にならない場合があることに留意されたい。

目次

調査結果のポイント.....	3
I 調査結果.....	5
1. 支払手段の利用状況.....	5
1.1. 各種支払手段、サービス等の利用状況.....	5
1.2. 年齢階層別にみた各種支払手段の利用状況.....	7
1.3. 世帯の年間所得階層別にみた各種支払手段の利用状況.....	9
1.4. 現金の所持.....	11
2. 最も利用したい支払手段.....	12
2.1. 支払手段の希望.....	12
2.2. 現金で支払いたい理由.....	15
3. 品目別の支払方法.....	16
3.1. 日常的に購入する品目.....	16
3.2. 定期的に購入する品目.....	19
3.3. 購入頻度の低い品目.....	20
3.4. 最近利用が増えている品目.....	21
3.5. 保険料及び税金.....	22
4. 個人の消費支出額におけるキャッシュレス決済比率.....	24
4.1. 全体のキャッシュレス決済比率.....	24
4.2. 世帯の年間収入階層別にみたキャッシュレス決済比率.....	25
4.3. 試算の方法.....	26
5. 時系列の変化.....	28
5.1. 2018年調査結果との比較.....	28
5.2. コロナ禍の前後での支払方法の変化.....	29
6. キャッシュレスに対する意識.....	30
7. ポイントサービスに対する意識.....	32
II 調査概要.....	37
付録 質問票と単純集計結果.....	39

調査結果のポイント

1. キャッシュレス決済比率

- ・個人の消費支出額におけるキャッシュレス決済の比率は 70.6%。
- ・最も多いキャッシュレス決済の手段はクレジットカードで 41.1%。次いで口座引き落とし (10.0%)、QRコード・バーコード決済 (8.1%) となっている。

ポイント表 1 個人の消費支出額におけるキャッシュレス決済比率

	比率 (%)
キャッシュレス決済比率	70.6
(内訳)	
クレジットカード	41.1
口座引き落とし	10.0
QR・バーコード決済	8.1
プリペイド式電子マネー	4.9
インターネットバンキング	1.5
デビットカード	1.4
キャッシュカードで振込	1.4
タッチ決済	1.1
その他現金以外	0.7
給与天引き	0.2
NFT・暗号資産	0.0

(注)n=2,403

2. 5年前との比較

- ・個人の消費支出額におけるキャッシュレス決済比率は、5年前の 51.2%から 19.3%ポイント増加し、70.6%となった。
- ・主な内訳は、クレジットカードでの支払いが 10.1%ポイント増加、QRコード・バーコード決済およびタッチ決済の合計(フィンテックサービス)が 8.6%ポイント増加、キャッシュカードでの振込が 0.5%ポイント増加した。一方、口座引き落としは 0.3%ポイント減少した。

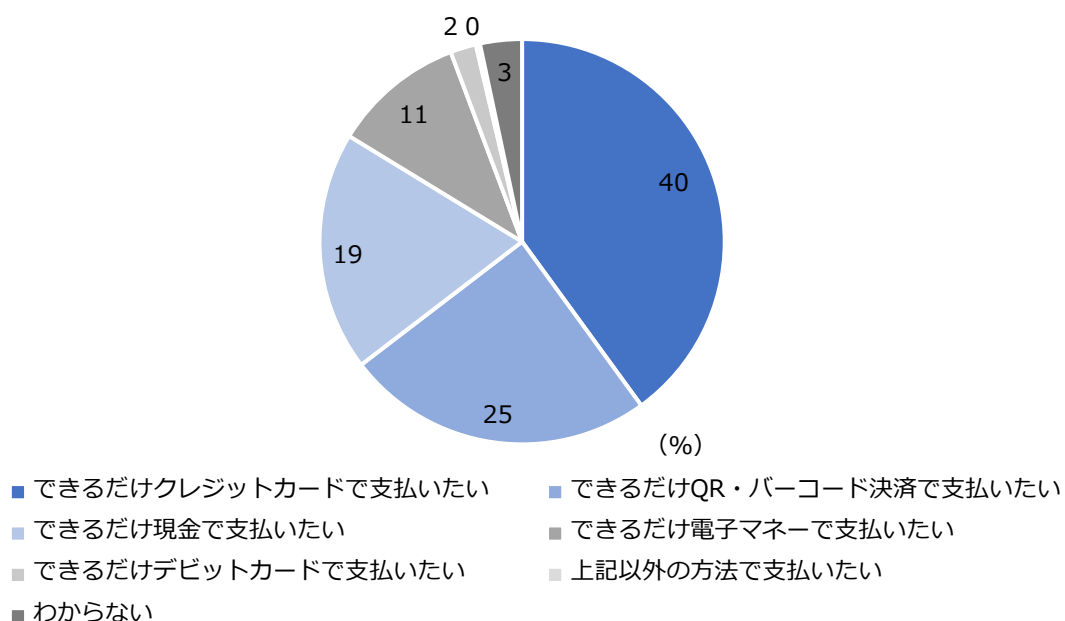
ポイント表 2 キャッシュレス決済比率の 5 年前との比較

	2023	2018	差
キャッシュレス決済比率	70.6	51.2	19.3
(内訳)			
クレジットカード	41.1	31.0	10.1
口座引き落とし	10.0	10.4	-0.3
QRバーコード+タッチ決済	9.2	0.7	8.6
プリペイド式電子マネー	4.9	4.9	0.0
インターネットバンキング	1.5	1.5	0.1
デビットカード	1.4	0.8	0.6
キャッシュカードで振込	1.4	0.9	0.5
その他現金以外	0.7	0.8	0.0
給与天引き	0.2	0.2	-0.1
NFT・暗号資産	0.0	0.1	-0.1

3. 支払手段の希望

・支払時に利用したい手段は、クレジットカードが最も多く 40%、次いで QR コード・バーコード決済が 25%、現金は 19%である。

ポイント図 3 支払手段の希望



I 調査結果

1. 支払手段の利用状況

1.1. 各種支払手段、サービス等の利用状況

Q11. 以下の項目について、あなたは、日常的に使っていますか。(それぞれ1つずつ)

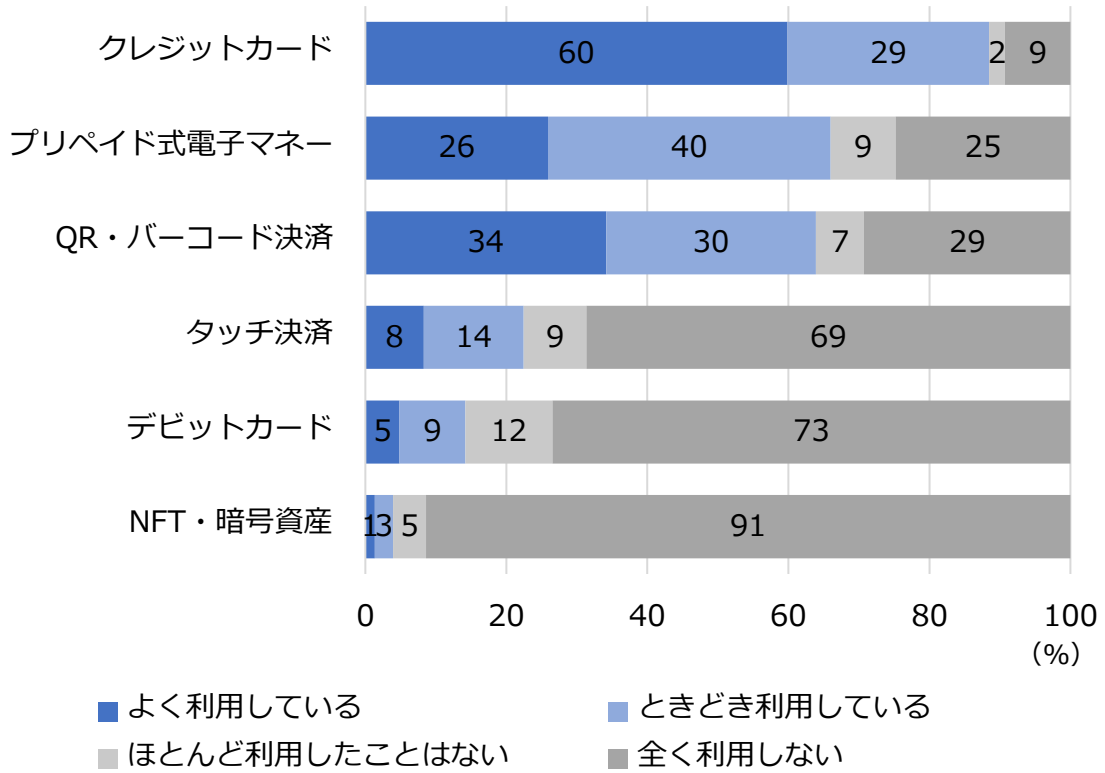
- (1) クレジットカード
- (2) デビットカード
- (3) プリペイド(前払い)式の電子マネー(Suica 等交通系電子マネー、楽天 Edy、nanaco、WAON 等)
- (4) QRコード・バーコード決済(PayPay、楽天ペイ、LINE Pay、au PAY 等)
- (5) スマホやスマートウォッチによるタッチ決済(Apple Pay、Google Pay、iD、QUICPay 等)
- (6) オートチャージ機能(ICカード等の、残高が減ると銀行口座から一定金額チャージされる機能)
- (7) ポイントサービス(楽天ポイント、Ponta ポイント、d ポイント、PayPay ポイント、マイル等)
- (8) パソコン
- (9) スマホ・携帯電話
- (10) NFT・暗号資産

支払い手段の利用状況について、各項目で「よく利用している」または「ときどき利用している」を回答した人の割合の合計をみると、「クレジットカード」は 88%、「プリペイド式電子マネー」は 66%、「QR・バーコード決済」は 64%と高く、日常的によく利用されていることがわかる(図 1-1-1)。

一方、「タッチ決済」、「デビットカード」については約 7 割の人が、また、「仮想通貨」については 9 割程度の人が、「全く利用していない」と回答している。

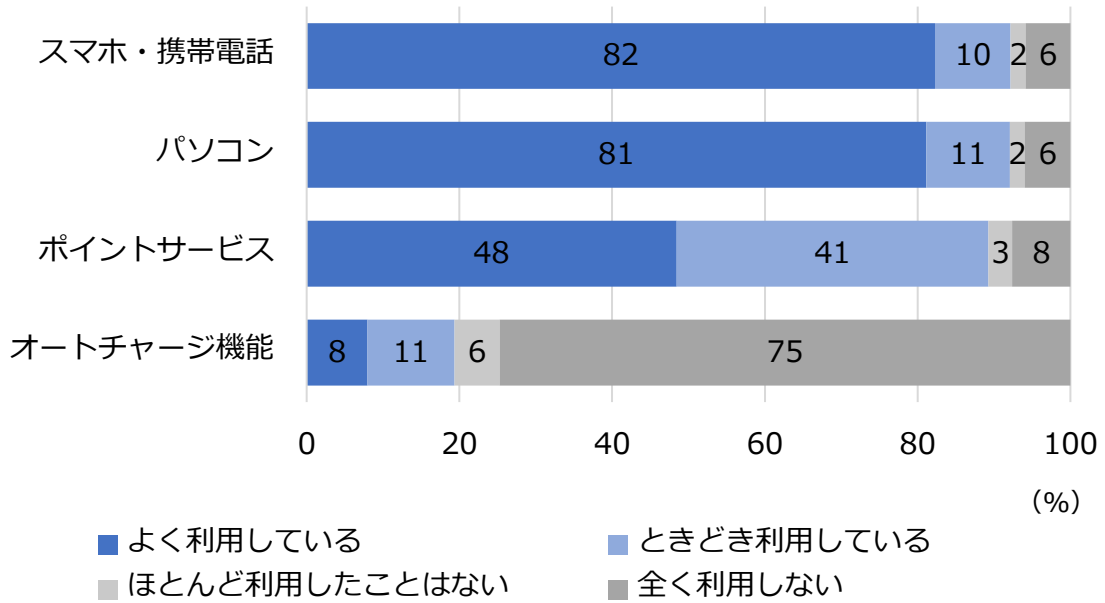
さらに、支払いに関連したサービスやデバイスの利用状況について、「スマホ・携帯電話」や「パソコン」を利用している人の割合(「よく利用している」、「ときどき利用している」の合計、以下同)は 9 割を超える(図 1-1-2)。「ポイントサービス」も同様に多い。一方で、「オートチャージ機能」は日常的に利用している人の割合は少ない。

図 1-1-1 各種支払手段の利用状況



(注)n=2,403

図 1-1-2 関連サービス等の利用状況



(注)n=2,403

1.2. 年齢階層別にみた各種支払手段の利用状況

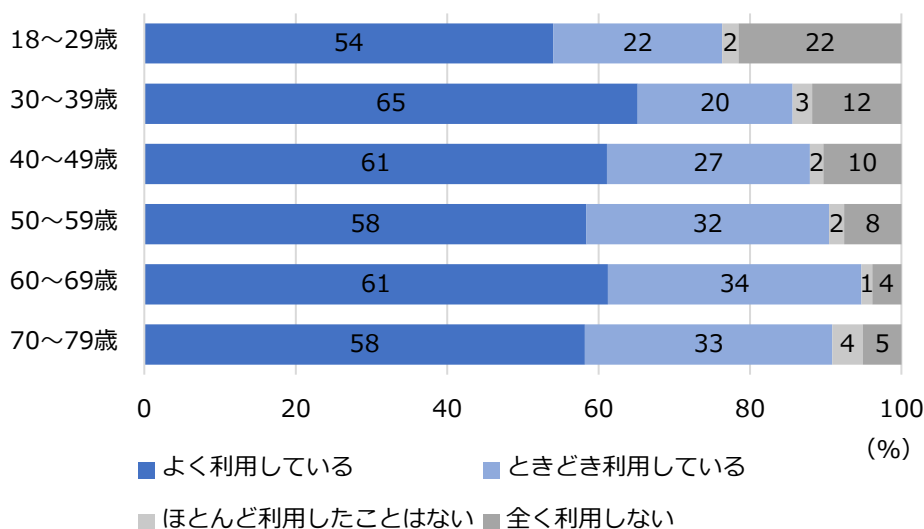
支払手段の利用状況を年齢階層別にみる。

クレジットカードについては、18～29歳で利用している人の割合が他の年齢層より少なく76%で、30代以上では8割を超える(図1-2-1)。18～29歳でクレジットカードの利用割合が少ない理由には、この年齢層には、クレジットカードの利用率が低い学生が多く含まれることがある³。また、30代以上の年齢層で軒並み利用割合が高いのは、一度クレジットカードを利用し始めると利便性のよさから利用を継続するためと考えられる。

プリペイド式電子マネーについても同様の傾向があり、18～29歳で利用している人の割合は55%、30代は59%、40代は65%、50代は66%、60代は73%、70代は72%となっている(図1-2-2)。

一方、QRコード・バーコード決済の年齢別の利用状況では逆の傾向がみられる。すなわち18～29歳で利用している人の割合が77%で最も多く、30代は73%、40代、50代は68%、60代は58%、70代は41%となっている(図1-2-3)。比較的新しいキャッシュレス手段であるQRコード・バーコード決済は、若い世代が利用しやすいことがうかがえる⁴。

図1-2-1 年齢階層別にみたクレジットカードの利用

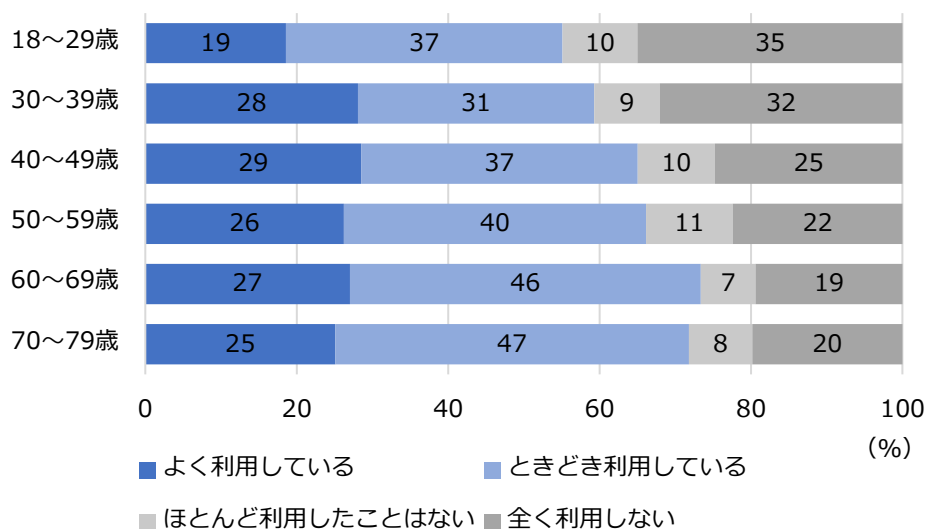


(注) サンプル数は18～29歳が322、30～39歳が321、40～49歳が460、50～59歳が409、60～69歳が558、70～79歳が333。

³ 学生は、クレジットカードを「全く利用しない」と答えた人の割合が約30%と、全体平均より多い。

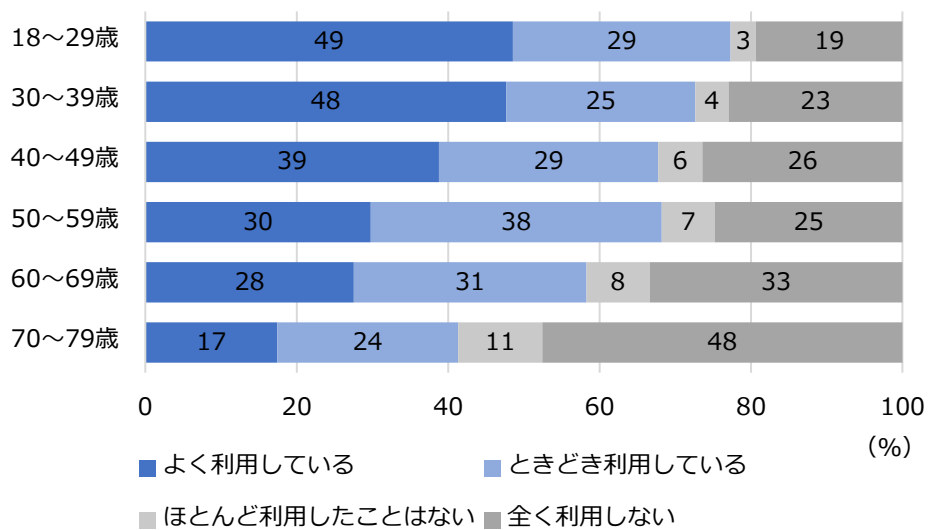
⁴ 学生でQRコード・バーコード決済を利用している人の割合は85%と顕著に多く、「全く利用しない」と答えた人は11%にとどまる。

図 1-2-2 年齢階層別に見たプリペイド式電子マネーの利用



(注) サンプル数は 18～29 歳が 322、30～39 歳が 321、40～49 歳が 460、50～59 歳が 409、60～69 歳が 558、70～79 歳が 333。

図 1-2-3 年齢階層別に見た QRコード・バーコード決済の利用



(注) サンプル数は 18～29 歳が 322、30～39 歳が 321、40～49 歳が 460、50～59 歳が 409、60～69 歳が 558、70～79 歳が 333。

1.3. 世帯の年間所得階層別にみた各種支払手段の利用状況

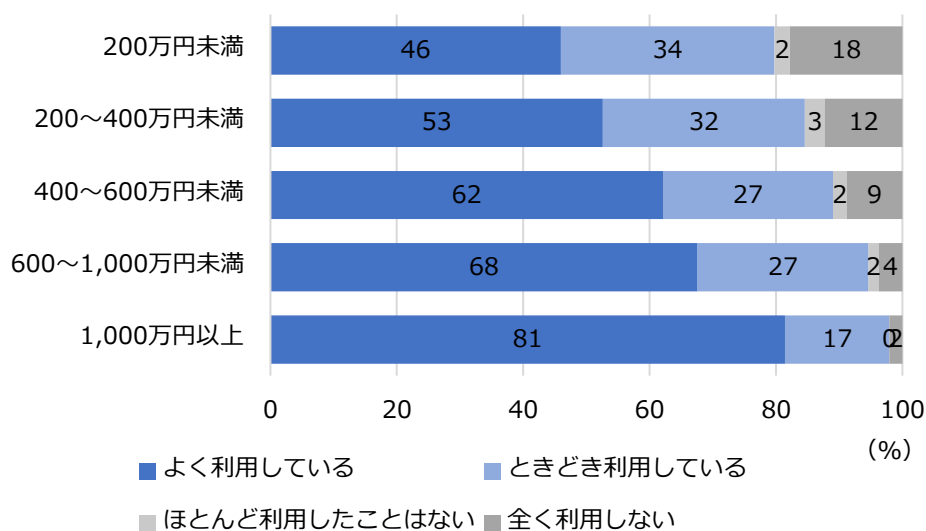
支払手段の利用状況を世帯の年間所得階層別にみる。

クレジットカードを利用している割合は、世帯所得が1,000万円以上のグループで最も多く、ほぼ100%に近い(図1-3-1)。クレジットカードの利用割合は、世帯年収が低くなるにつれて少なくなり、200万円未満では80%となっている。

プリペイド式電子マネーについては、世帯所得が1,000万円以上のグループで利用している割合が75%と最も多い(図1-3-2)。それ以下の世帯所得層は全て65%程度で、大きな違いは見られない。

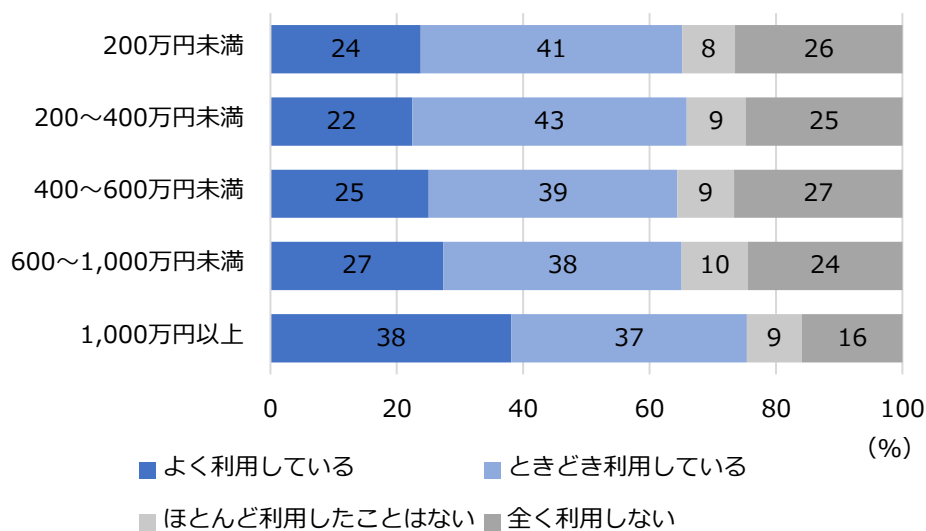
QRコード・バーコード決済については、世帯所得が600～1,000万円、1,000万円以上のグループで73～74%と最も多く、この割合は世帯年収が下がるにつれて少なくなる傾向がある(図1-3-3)。200万円未満あるいは200～400万円未満の所得層では60歳以上の年齢層が半数程度を占めることから、年齢の高い層でQRコード・バーコード決済の利用が少ないことに影響されたものと考えられる。

図1-3-1 世帯の年間所得階層別にみたクレジットカードの利用



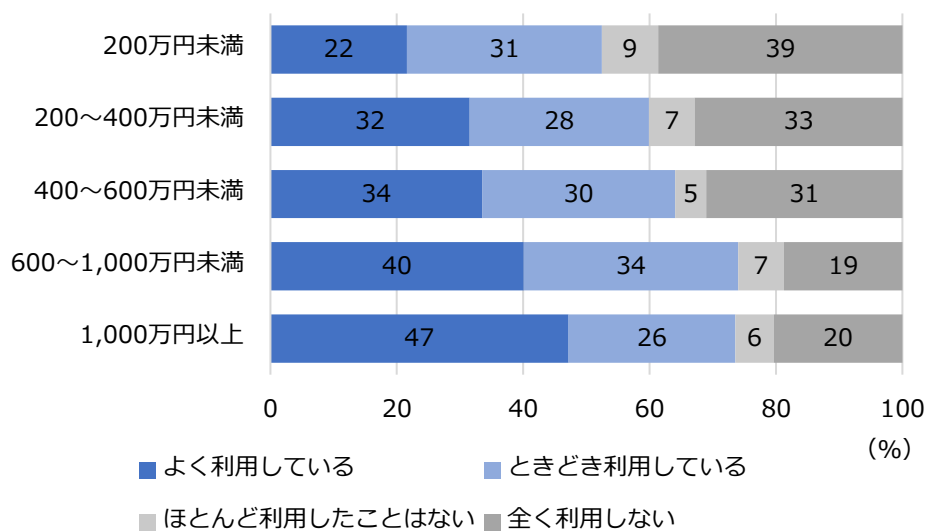
(注) サンプル数は200万円未満が243、200～400万円未満が540、400～600万円未満が445、600～1,000万円未満が499、1,000万円以上が291。

図 1-3-2 世帯の年間所得階層別にみたプリペイド式電子マネーの利用



(注) サンプル数は 200 万円未満が 243、200～400 万円未満が 540、400～600 万円未満が 445、600～1,000 万円未満が 499、1,000 万円以上が 291。

図 1-3-3 世帯の年間所得階層別にみた QR コード・バーコード決済の利用



(注) サンプル数は 200 万円未満が 243、200～400 万円未満が 540、400～600 万円未満が 445、600～1,000 万円未満が 499、1,000 万円以上が 291。

1.4. 現金の所持

Q12. あなたは普段、現金をいくら持ち歩きますか。(1つだけ)

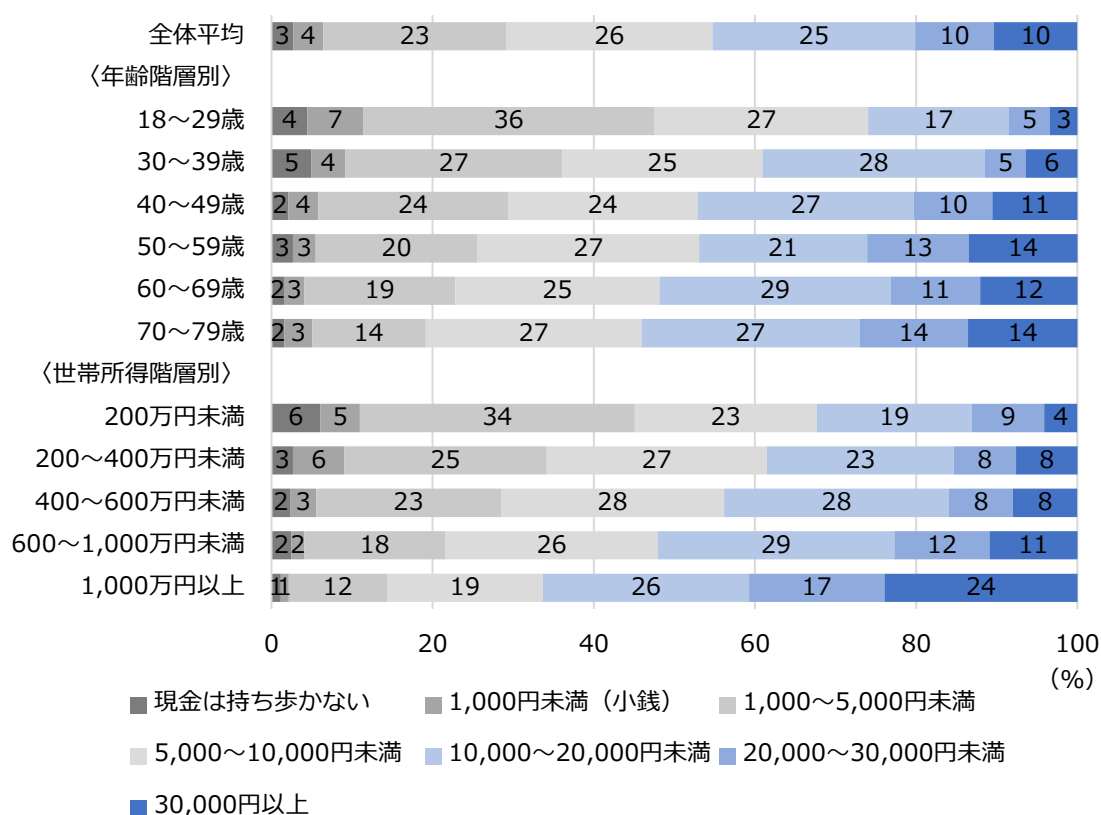
- (1) 現金は持ち歩かない
- (2) 1,000 円未満(小銭)
- (3) 1,000 円以上 5,000 円未満
- (4) 5,000 円以上 10,000 円未満
- (5) 10,000 円以上 20,000 円未満
- (6) 20,000 円以上 30,000 円未満
- (7) 30,000 円以上

普段持ち歩く現金の金額についてみると、全体では「1,000～5,000 円未満」、「5,000～10,000 円未満」、「10,000～20,000 円」と答えた人の割合がそれぞれ 23～26%と、同程度に存在する(図 1-4)。「現金は持ち歩かない」と答えた人の割合は 3%であった。

年齢階層別にみると、年齢が上がるほどより多くの現金を所持する傾向がある。

世帯の所得階層別にみると、所得が高い層ほどより多くの現金を所持する傾向がある。世帯所得が 1,000 万円以上の層では 24%の人が現金を 30,000 円以上持ち歩いている。この層はクレジットカードなどキャッシュレス手段をよく利用しているが、現金も併せて所持していることがわかる。

図 1-4 現金の所持金額(全体平均、年齢階層別、世帯の所得階層別)



(注) サンプル数は全体で 2,403。

2. 最も利用したい支払手段

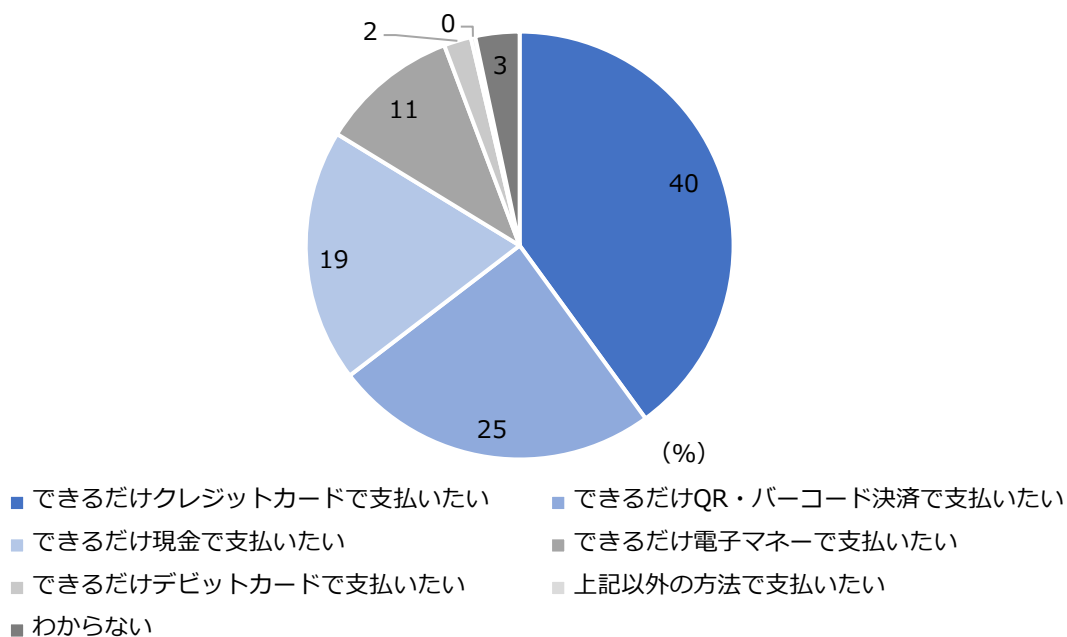
2.1. 支払手段の希望

Q13. 商品やサービスの購入時の支払い手段について、あなたの考えにあてはまるものを一つ選んでください。(1つだけ)

- (1) できるだけ現金で支払いたい
- (2) できるだけクレジットカードで支払いたい
- (3) できるだけデビットカードで支払いたい
- (4) できるだけ電子マネー(交通系電子マネー等)で支払いたい
- (5) できるだけQRコード・バーコード決済(PayPay 等)で支払いたい
- (6) 上記以外の方法で支払いたい
- (7) わからない

支払時に最も利用したい手段をみると、「できるだけクレジットカードで支払いたい」が 40%で最も多く、次いで「できるだけ QR コード・バーコード決済で支払いたい」が 25%、「できるだけ現金で支払いたい」は 19%であった(図 2-1-1)。また、「できるだけ電子マネーで支払いたい」は 11%にとどまった。

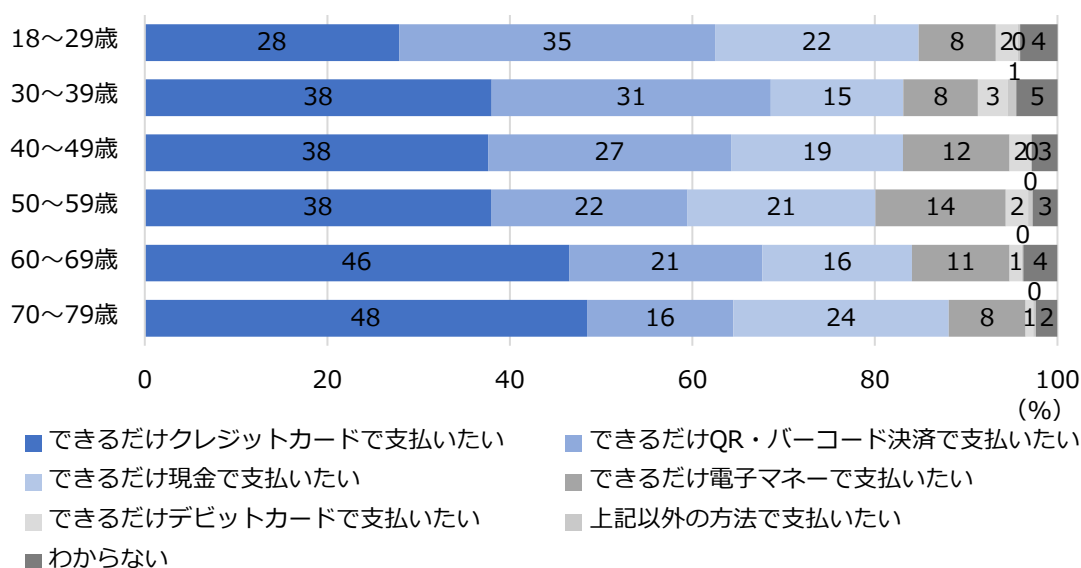
図 2-1-1 支払手段の希望



(注) n=2,403

年齢階層別にみると、クレジットカードの利用を希望する人の割合は 70 代で最も多く 48%、次いで 60 代が 46%、30 代～50 代はすべて 38%となっている(図 2-1-2)。18～29 歳はクレジットカードの利用希望が 28%にとどまり、QR コード・バーコード決済を希望する人の割合が 35%と、最も多くの割合を占める。また、現金の利用を希望する人の割合が最も少ないのは 30 代で(15%)、反対に多いのは 70 代である(24%)。70 代は QR コード・バーコード決済を希望する人の割合が 16%にとどまっており、その分、クレジットカードあるいは現金での支払いを望む人が多いようだ。

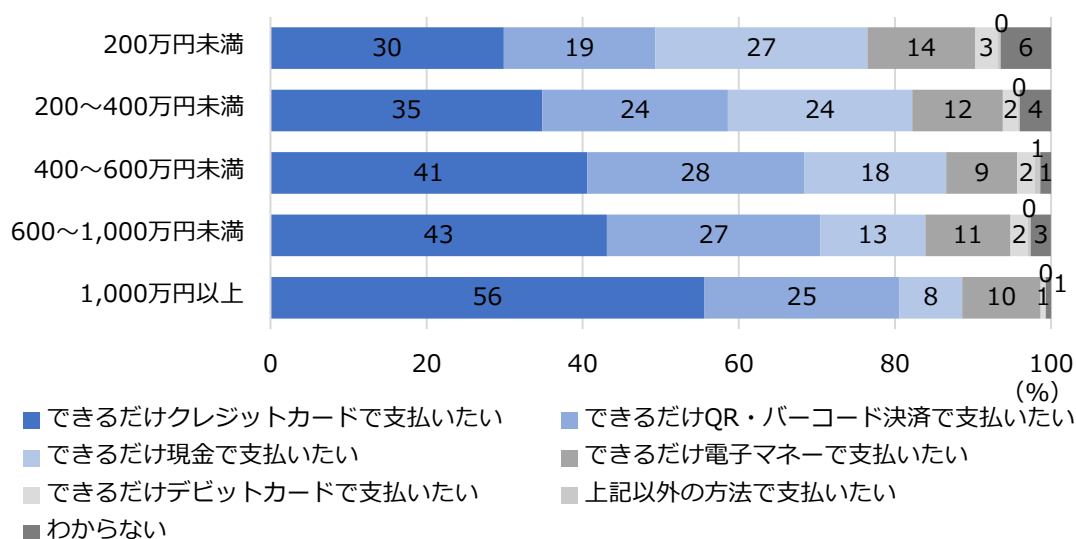
図 2-1-2 年齢階層別にみた支払手段についての考え



(注) サンプル数は 18～29 歳が 322、30～39 歳が 321、40～49 歳が 460、50～59 歳が 409、60～69 歳が 558、70～79 歳が 333。

世帯の所得階層別にみると、クレジットカードの利用を希望する人の割合は所得階層が上がるにつれて多くなり、1,000 万円以上では 56%にのぼる(図 2-1-3)。一方、現金の利用を希望する人の割合は所得が低い層で多く、200 万円未満では 27%となっている。

図 2-1-3 世帯の所得階層別にみた支払手段についての考え



(注) サンプル数は 200 万円未満が 243、200～400 万円未満が 540、400～600 万円未満が 445、600～1,000 万円未満が 499、1,000 万円以上が 291。

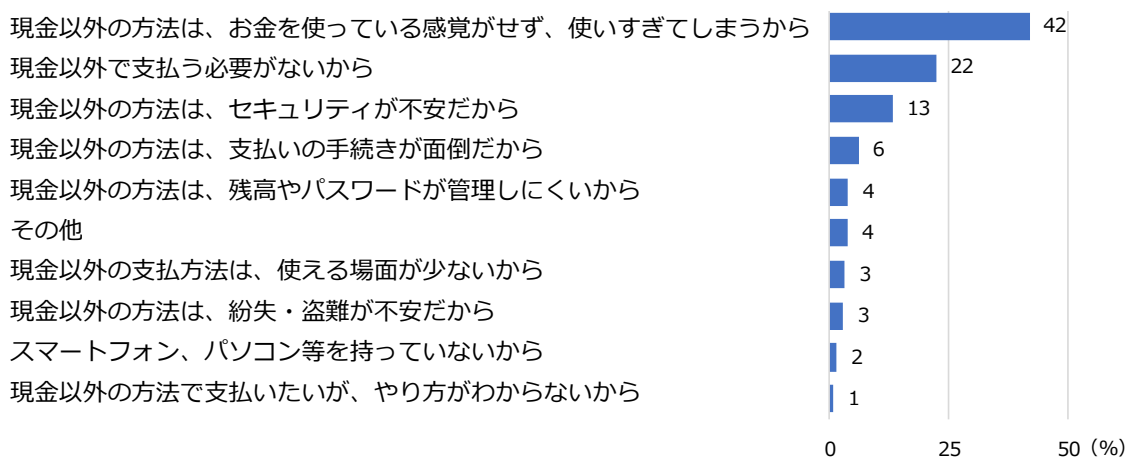
2.2. 現金で支払いたい理由

Q14. できるだけ現金で支払いたいのは、なぜですか。(1つだけ)(Q13 で「現金で支払いたい」と答えた方のみ)

- (1) 現金以外で支払う必要がないから
- (2) 現金以外の方法は、セキュリティが不安だから
- (3) 現金以外の方法は、紛失・盗難が不安だから
- (4) 現金以外の方法は、お金を使っている感覚がせず、使いすぎてしまうから
- (5) 現金以外の方法は、支払いの手続きが面倒だから
- (6) 現金以外の方法は、残高やパスワードが管理しにくいから
- (7) 現金以外の支払方法は、使える場面が少ないから
- (8) スマートフォン、パソコン等を持っていないから
- (9) 現金以外の方法で支払いたいが、やり方がわからないから
- (10) その他

「できるだけ現金で支払いたい」と回答した人に対し、その理由を聞いた(図 2-2-1)。「現金以外の方法は、お金を使っている感覚がせず、使いすぎてしまうから」が最も多く42%で、次いで「現金以外で支払う必要がないから」が 22%、「現金以外の方法は、セキュリティが不安だから」が 13%となっている。

図 2-2-1 現金で支払いたい理由

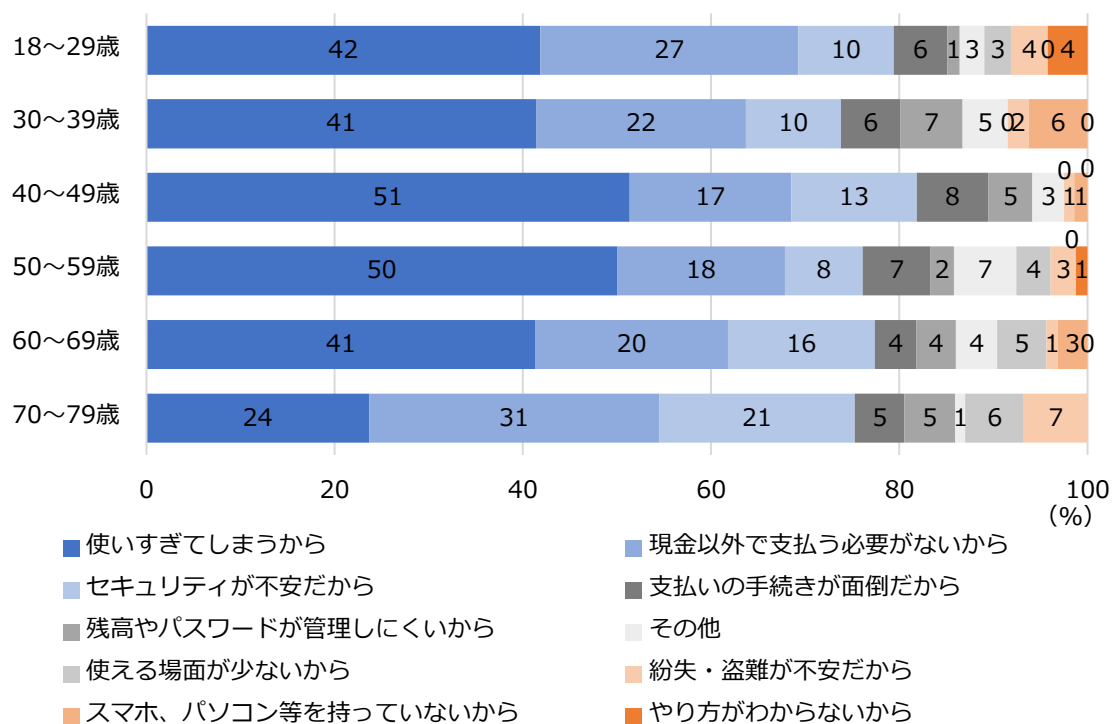


(注)n=591

年齢階層別にみると、60代以下の層では使いすぎへの懸念を挙げる人の割合が最も多い(図 2-2-2)。特に40代、50代では約半数を占めている。70代のみ、この割合が24%とやや少なく、

現金以外で支払う必要性がないとの理由を挙げている人の割合が31%で最も多い。また、セキュリティへの不安を挙げる人の割合も、他の年齢層と比べて多い。

図 2-2-2 年齢階層別にみた現金で支払いたい理由



(注)回答者は Q13 で「できるだけ現金で支払いたい」と答えた人のみで、サンプル数は 18～29 歳が 72、30～39 歳が 46、40～49 歳が 86、50～59 歳が 84、60～69 歳が 91、70～79 歳が 78。

3. 品目別の支払方法

3.1. 日常的に購入する品目

Q16. 日常的な買い物において、以下の商品やサービスを購入した時、あなたはどのような手段で支払いましたか。直近の支払いについてお答えください。(それぞれ1つずつ)

- (1) 食料品(飲料、外食は除く)
- (2) 飲料(外食を除く。小売店や自動販売機での購入)
- (3) 外食(飲酒代を含む)
- (4) 日用品(台所用品、トイレトペーパー、洗剤、シャンプー等)
- (5) 身の回り品(腕時計、アクセサリ、傘、かばん等)
- (6) 被服、履物
- (7) 自動車等維持費(ガソリン、整備費用等。ただし、駐車場代金は除く)
- (8) レンタカー等自動車関連サービス

- (9) 医療・介護関連サービス(おむつ、眼鏡、医療費、マッサージ、人間ドッグ、介護サービス料等)
- (10) バス、鉄道運賃(定期券代は除く)
- (11) タクシー代
- (12) 航空運賃
- (13) 有料道路料(※ETCカードを利用した場合にはクレジットカード、また、ETC パーソナルカードを利用した場合は、デビットカードとお答えください。)
- (14) 郵便、運送料
- (15) 教養、娯楽、スポーツ、ペット関連
- (16) 書籍・雑誌
- (17) 旅行
- (18) 理髪料、パーマ・カット代等
- (19) 化粧品
- (20) 仕送り・こづかい・家族への贈与
- (21) 仕送り・こづかい・家族への贈与を除く個人間送金
- (22) その他サービス料(家事サービス、被服関連サービス等)

日常的に購入する品目を購入した人が、その直近の支払いに、現金、クレジットカード、QRコード・バーコード決済、プリペイド式電子マネー、その他の現金以外の方法のうち、どの方法を利用したかを図 3-1 にまとめた⁵。品目名の横の括弧内は、その品目を購入した人の割合を%で示している。

まず「食料品」は、回答者の 97%は支払いがあったと答えており、購入者のうち最も多かった支払方法はクレジットカード(37%)で、現金(26%)を上回った。QRコード・バーコード決済は 17%、プリペイド式電子マネーは 15%であった。次に、「飲料」の支払い方法で最も多かったのは現金で 38%、クレジットカードが 22%、QRコード・バーコード決済が 20%と続く。自動販売機の利用などで、現金で支払う機会が多いことが考えられる。「外食」や「日用品」は、クレジットカードでの支払いが 4 割前後で、現金(3 割弱)より多い。プリペイド式電子マネーも 2 割程度いる。

また、「身の回り品」、「被服、履物」、「自動車等維持費」はクレジットカードによる支払いが 7 割近くを占めており、現金は 2 割程度にとどまる。「レンタカー等自動車関連サービス」、「航空運賃」、「有料道路料」、「旅行」ではクレジットカードの割合がさらに多くなり、8~9 割近い。

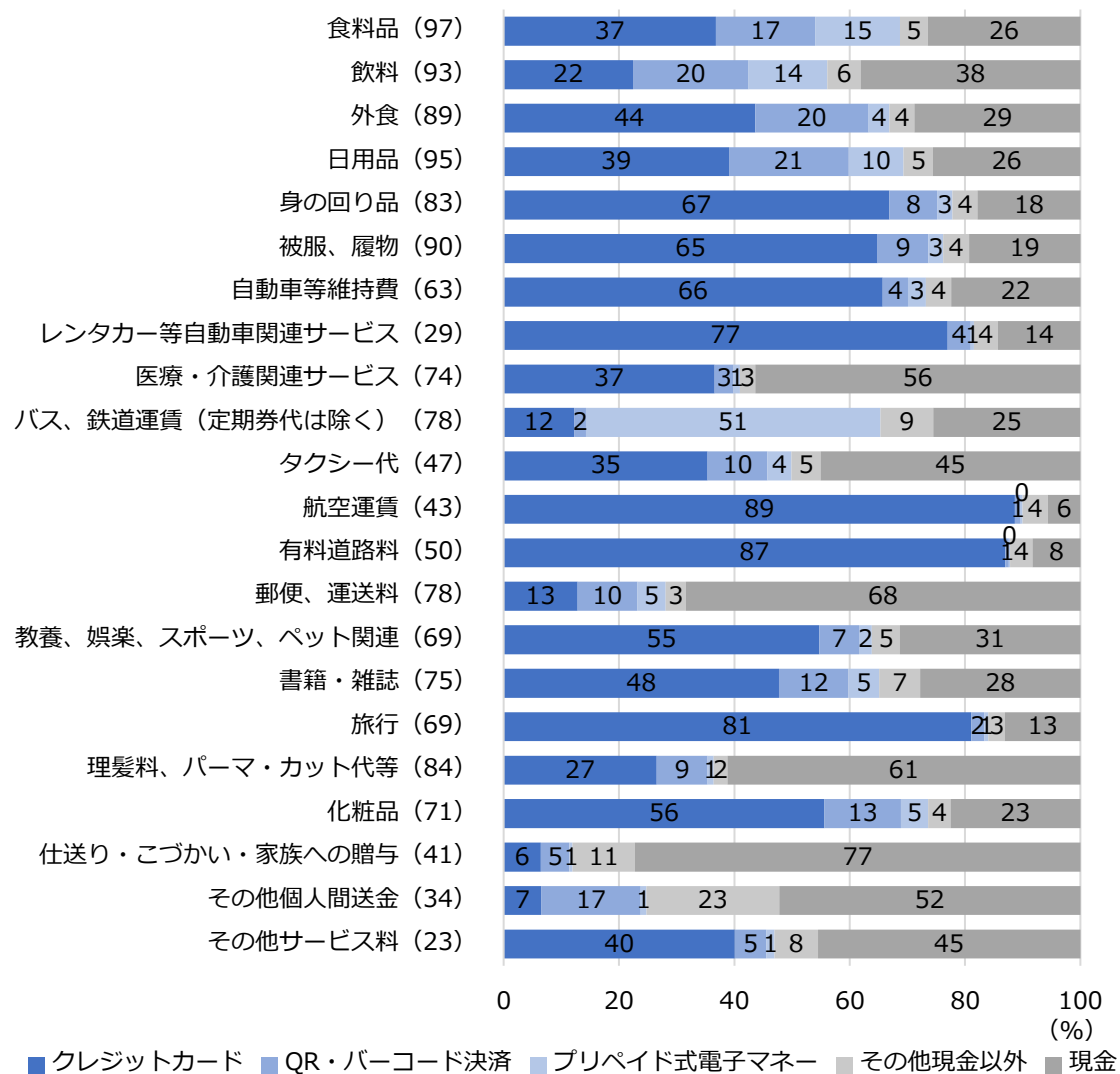
一方で、いくつかの品目では現金を利用した人の割合が最も多くなっている。「医療・介護関連サービス」は 56%、「タクシー代」は 45%が現金支払いで、クレジットカードはそれぞれ 40%弱で

⁵ その他の現金以外の方法には、「デビットカード」、「スマホやスマートウォッチによるタッチ決済」、「ATM・銀行窓口にてキャッシュカード等で支払先の口座に振込」、「インターネットバンキングにて支払先の口座に振込」、「NFT・暗号資産」、「その他の方法で現金以外の方法を利用」が含まれる。

ある。さらに、「郵便、運送料」は 68%、「理髪料、パーマ・カット代等」は 61%、「仕送り・こづかい・家族への贈与」は 77%の人が現金で支払ったと回答している。

なお、「バス・鉄道運賃(定期券代は除く)」はプリペイド式電子マネーが最もよく利用されており(51%)、次いで現金(25%)となっている。

図 3-1 日常的に購入する品目の支払方法



(注) サンプル数は全体で 2,403。品目名の横の括弧内は、その品目を購入した人の割合を示しており、グラフは購入者のサンプルを 100 とした時の各支払方法の利用者の割合を示している。

3.2. 定期的に購入する品目

Q17. 定期的に支払いが生じる、以下のサービス料金をあなたはどのような手段で支払いましたか。直近の支払いについてお答えください。(それぞれ1つずつ)

- (1) 授業料(保育サービスを含む)
- (2) 家賃・管理費(共益費を含む)
- (3) 電気代
- (4) ガス代
- (5) 上下水道代
- (6) 通勤・通学定期券代
- (7) 駐車場代金
- (8) スマホ・携帯電話等の利用料
- (9) 塾、習い事月謝
- (10) NHK 放送受信料(BS を含む)
- (11) その他放送受信料、インターネット接続料

前節と同様に、定期的に支払いが生じる品目について、その直近の支払いに、現金、クレジットカード、口座からの自動引落し、その他の現金以外の方法のうち、どの方法を利用したかを図 3-2 にまとめた⁶。

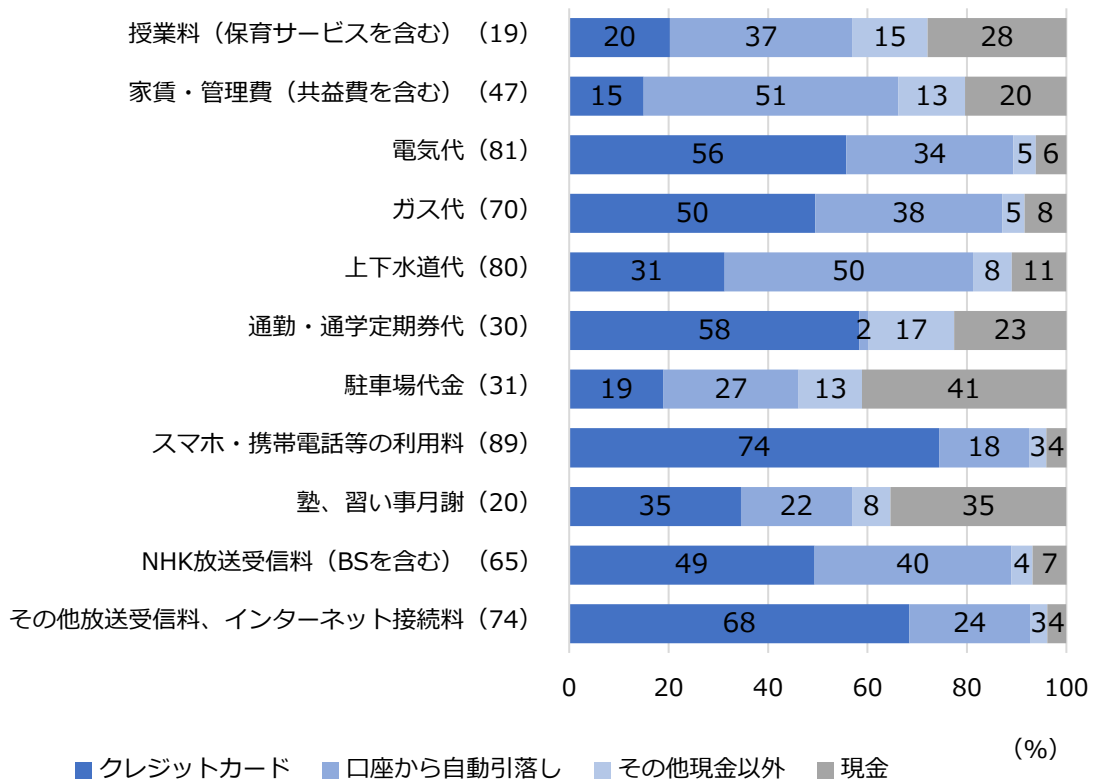
まず「家賃・管理費」をみると、最も多いのは口座からの自動引落しで 51%、次いで現金が 20%、クレジットカードが 15%であった。

つづいて光熱費に注目すると、「電気代」、「ガス代」は 50~56%の人がクレジットカード、34~38%の人が口座からの自動引落しで、現金は 6~8%にとどまる。「上下水道代」は、口座からの自動引落しが最も多く 50%、次いでクレジットカードが 31%、現金は 11%であった。また、「その他放送受信料、インターネット接続料」はクレジットカードの割合が 68%と多くを占め、次いで口座からの自動引落しが 24%であった。なお、「スマホ・携帯電話等の利用料」もクレジットカードが 74%を占めており、インターネット関連の支払いはクレジットカードの利用が多いことがわかる。

その他の品目について、クレジットカードの利用が多いのは「通勤・通学定期券代」(58%)、「NHK 放送受信料(BS を含む)」(49%)である。ただし後者は、口座からの自動引落しの利用も 40%いる。一方、現金の利用割合が比較的多い品目は、「駐車場代金」(41%)や「塾、習い事月謝」(35%)である。

⁶ その他の現金以外の方法には、「デビットカード」、「プリペイド式の電子マネー」、「QRコード・バーコード決済」、「スマホやスマートウォッチによるタッチ決済」、「ATM・銀行窓口にてキャッシュカード等で支払先の口座に振込」、「給与天引き」、「インターネットバンキングにて支払先の口座に振込」、「その他の方法で現金以外の方法を利用」が含まれる。

図 3-2 定期的に支払う品目の支払方法



(注) サンプル数は全体で 2,403。品目名の横の括弧内は、その品目を支払った人の割合を示しており、グラフは支払ったサンプルを 100 とした時の各支払方法の利用者の割合を示している。

3.3. 購入頻度の低い品目

Q18. 時折支払いが発生するような、以下の商品やサービスについて、あなたは過去 5 年の間に購入しましたか。購入した場合、どの手段で支払いましたか。複数回購入した場合には、直近の支払いについてお答えください。(それぞれ1つずつ)

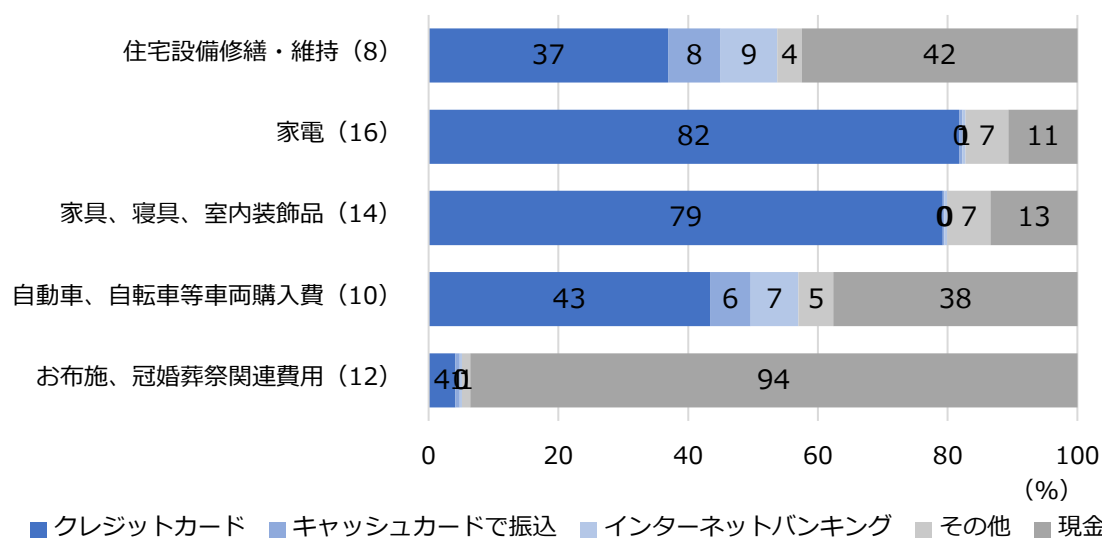
- (1) 住宅設備修繕・維持
- (2) 家電
- (3) 家具、寝具、室内装飾品(照明器具、じゅうたん、カーテン等)
- (4) 自動車、自転車等車両購入費
- (5) お布施、冠婚葬祭関連費用

次に、比較的購入の頻度が低いと思われる品目をみる。本設問については、過去 5 年における直近の支払いを回答してもらったため、同一の回答者が期間内に複数回購入していないものと仮定し、「支払った人の割合」は実データの値の 5 分の 1 に修正している(図 3-3)。その直近の

支払いにおいて、現金、クレジットカード、キャッシュカードで振込、インターネットバンキングで振込、その他の現金以外の方法のうち、どの方法を利用したかをまとめた⁷。

「家電」や「家具、寝具、室内装飾品」はクレジットカードで支払った人の割合が多く、それぞれ82%、79%となっている。一方、「お布施、冠婚葬祭関連費用」は94%の人が現金を利用している。また、「住宅設備修繕・維持」、「自動車、自転車等車両購入費」はクレジットカードと現金の利用者の割合がそれぞれ4割前後となっている。

図 3-3 購入頻度の低い品目の支払方法



(注) サンプル数は全体で2,403。品目名の横の括弧内は、過去5年間でその品目を購入した人の割合を5分の1に修正して示している。グラフは購入者を100とした時の各支払方法の利用者の割合を示している。

3.4. 最近利用が増えている品目

Q20. 以下のサービスについて、あなたは、過去一年の間に利用しましたか。利用した場合、どの手段で支払いましたか。複数回購入した場合には、直近の支払いについてお答えください。(それぞれ1つつ)

- (1) シェアリング(カーシェア、クラウドファンディング等)
- (2) 有料のオンライン娯楽サービス(動画・音楽の定額配信サービス、電子書籍・雑誌・コミックの定額配信サービス等)

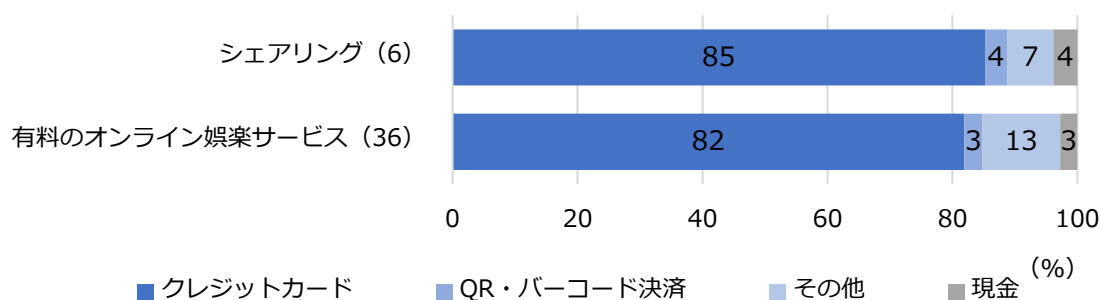
⁷ その他の現金以外の方法には、「デビットカード」、「プリペイド式の電子マネー」、「QRコード・バーコード決済」、「スマホやスマートウォッチによるタッチ決済」、「NFT・暗号資産」、「その他の方法で現金以外の方法を利用」が含まれる。

つづいて、最近利用が増えていると思われる品目をみる。過去1年間に「シェアリング(カーシェア、クラウドファンディング等)」を利用した人は全体の6%、「有料のオンライン娯楽サービス(動画・音楽の定額配信サービス、電子書籍・雑誌・コミックの定額配信サービス等)」を利用した人は36%であった。

利用した人において、その直近の支払いに、現金、クレジットカード、QRコード・バーコード決済、その他の現金以外の方法のうち、どの方法を利用したかを図3-4にまとめた⁸。

いずれも8割以上の人々がクレジットカードを利用しており、現金の利用割合は少ない。

図3-4 最近利用が増えている品目の支払方法



(注) サンプル数は全体で2,403。品目名の横の括弧内は、過去1年間にその品目を利用した人の割合を示しており、グラフは利用したサンプルを100とした時の各支払方法の利用者の割合を示している。

3.5. 保険料及び税金

Q19. 以下の保険料・税金を、あなたはどのような手段で支払いましたか。直近の支払いについてお答えください。(それぞれ1つずつ)

- (1) 火災・地震保険料
- (2) 自動車等保険料
- (3) 民間会社の医療保険料
- (4) 貯蓄型保険料
- (5) 社会保険料(年金保険料や健康保険料)
- (6) 所得税
- (7) 住民税
- (8) その他の税金

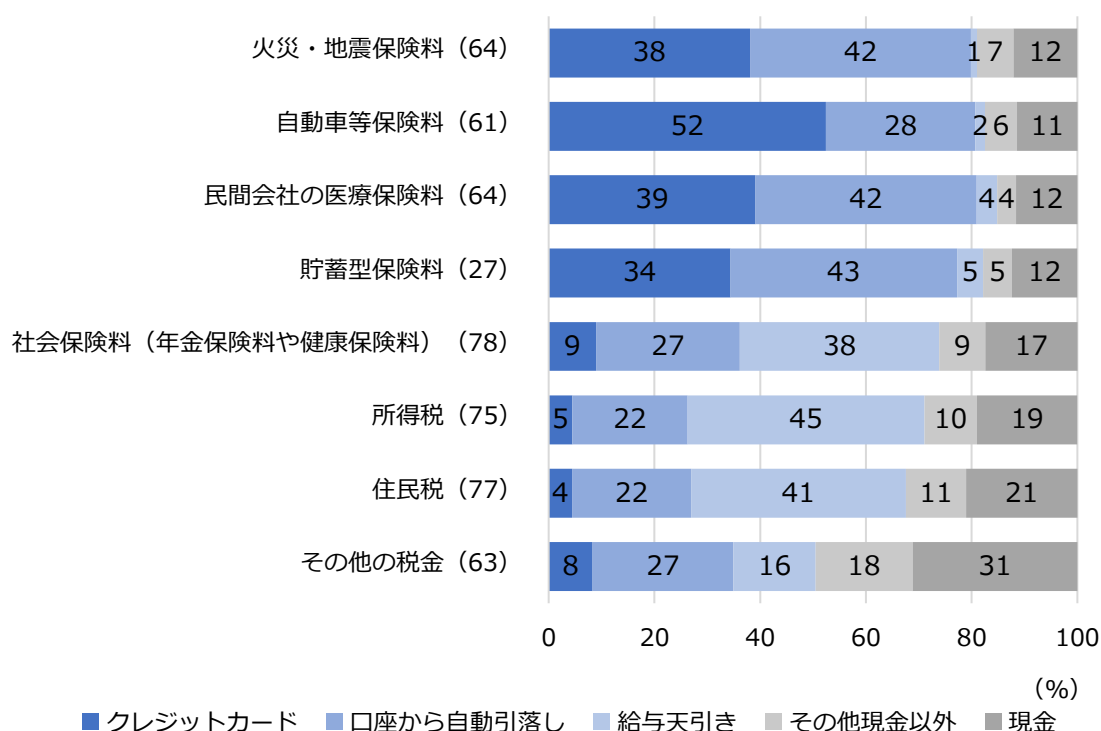
さらに、保険料及び税金の支払いをみる。それぞれを支払った人において、直近の支払いに、

⁸ その他の現金以外の方法には、「デビットカード」、「プリペイド式の電子マネー」、「スマホやスマートウォッチによるタッチ決済」、「ATM・銀行窓口にてキャッシュカード等で支払先の口座に振込」、「インターネットバンキングにて支払先の口座に振込」、「NFT・暗号資産」、「その他の方法で現金以外の方法を利用」が含まれる。

現金、クレジットカード、口座から自動引落し、給与天引き、その他の現金以外の方法のうち、どの方法を利用したかを図 3-5 にまとめた⁹。

「自動車等保険料」、「民間会社の医療保険料」、「火災・地震保険料」、「貯蓄型保険料」といった民間の保険料の支払いについてはクレジットカードあるいは口座から自動引き落としが多く、合わせて 8 割前後の人が利用している。一方、社会保険料や税金に関しては「給与天引き」の割合が多い。これは企業で働く被雇用者が多いためだと考えられる。また、その他の税金については「現金」で支払う人も 3 割程度いる。

図 3-5 保険料及び税金の支払方法



(注) サンプル数は全体で 2,403。項目名の横の括弧内は、支払った人の割合を示しており、グラフは支払ったサンプルを 100 とした時の各支払方法の利用者の割合を示している。

⁹ その他の現金以外の方法には、「デビットカード」、「プリペイド式の電子マネー」、「QRコード・バーコード決済」、「スマホやスマートウォッチによるタッチ決済」、「ATM・銀行窓口にてキャッシュカード等で支払先の口座に振込」、「インターネットバンキングにて支払先の口座に振込」、「その他の方法で現金以外の方法を利用」が含まれる。

4. 個人の消費支出額におけるキャッシュレス決済比率

4.1. 全体のキャッシュレス決済比率

本アンケートの調査結果をもとに、キャッシュレス決済比率を試算する。ここでのキャッシュレス決済比率とは、「現金を利用しないすべての決済手段により支払われた消費支出の合計」を「全体の消費支出」で除したものである。

試算の結果、全体のキャッシュレス決済比率は 70.6%となった(表 4-1)。内訳をみると、クレジットカードが最も多く 41.1%、口座引き落としが 10.0%、QRコード・バーコード決済が 8.1%と続く。また、銀行口座間送金に当たる項目を合計すると、13%ほどである(表 4-1 の*がついた4項目の合計)。

表 4-1 個人の消費支出額におけるキャッシュレス決済比率

	比率 (%)
キャッシュレス決済比率	70.6
(内訳)	
クレジットカード	41.1
口座引き落とし*	10.0
QR・バーコード決済	8.1
プリペイド式電子マネー	4.9
インターネットバンキング*	1.5
デビットカード	1.4
キャッシュカードで振込*	1.4
タッチ決済	1.1
その他現金以外	0.7
給与天引き*	0.2
NFT・暗号資産	0.0

(注)n=2,403

ただし、本アンケート調査は対象の年齢層を 18～79 歳に限定していること、インターネット調査であるためキャッシュレス決済に比較的親和性の高い人が回答しているなどのサンプルの特性により、キャッシュレス決済比率が高めに推計されている可能性がある。

また、本試算は、アンケート調査で得られた購入時の支払方法ごとの人数の比率に、全国家計構造調査(2019 年)の支払金額を乗じて、支払方法別の支出額を算出している。本来であれば、アンケート調査項目として各人が支払った金額を調査する必要があるが、過去の支払金額がいくらであったかを聞くことは現実的でないことから、そこまでの調査を実施していないことに留意が

必要である。

経済産業省の 2022 年の試算によると、民間最終消費支出におけるキャッシュレス決済比率は全体で 36.0%であった。内訳はクレジットカードが 30.4%、コード決済が 2.6%、電子マネーが 2.0%、デビットカードが 1.0%となっており、いずれも本試算より低い数値となっている¹⁰。

両者の計数に差が生じている理由は、上述した本調査サンプルの特性に加えて、本試算でいくつかの改善がなされている点にあると考えられる。経済産業省が 2018 年 4 月に策定した「キャッシュレス・ビジョン」では、キャッシュレス決済比率の論点として、①分母に持ち家の帰属家賃が含まれている、②分子に銀行口座間送金が含まれていない、③分子にスマートフォンアプリ等を活用した支払が含まれていない、④分子にコーポレートカードの利用額が含まれている、の 4 点が指摘されている。このうち③の問題点については、経済産業省の試算でもキャッシュレス推進協議会「コード決済利用動向調査」に基づくコード決済額が計上されるようになったため、現時点では解決したと思われる。

一方、本調査のキャッシュレス決済比率は、③の QR コード・バーコード決済やタッチ決済を計上しているに加えて、①の帰属家賃は含まず、また、②の銀行口座間送金を計上していることから、①～③の問題は生じていない。また、④については、基本的に個人の消費を聞いており、コーポレートカードの支払いが含まれている割合は小さいと考えられる。

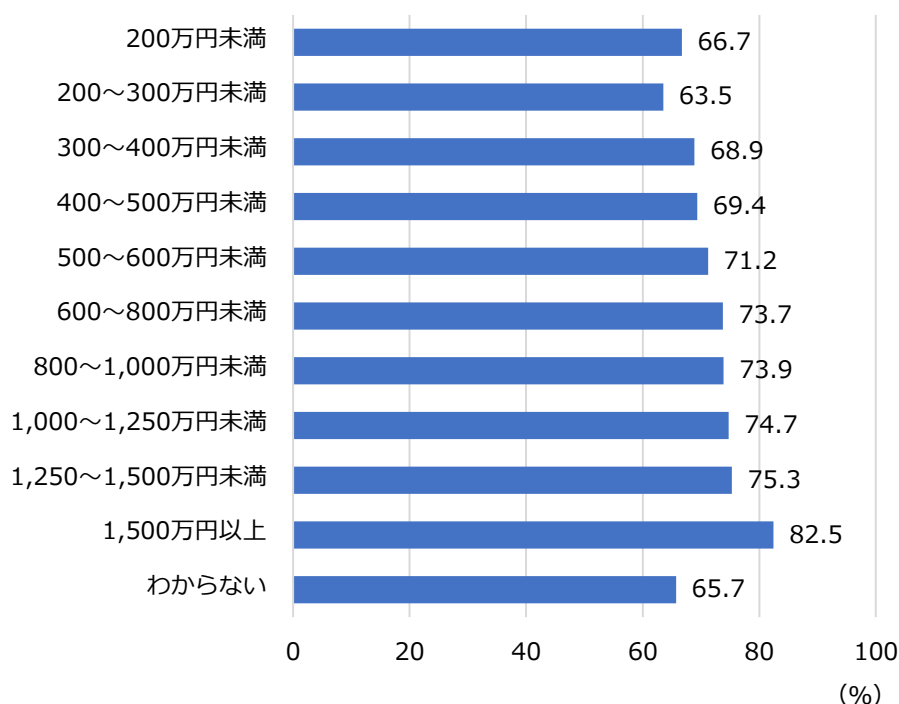
なお、次章では、同じ調査手法をとった 5 年前の同調査の結果との比較をまとめており、インターネット調査のサンプル特性を踏まえた上で、キャッシュレス化が着実に進展していることが確認できる。

4.2. 世帯の年間収入階層別にみたキャッシュレス決済比率

全体のキャッシュレス決済比率を算出する過程で、世帯の年収階層別のキャッシュレス決済比率についても算出した。その結果、おおむね世帯年収が高くなるにつれて、キャッシュレス決済比率は若干高くなる傾向がみられた(図 4-2)。

¹⁰ 本調査の調査時点(2023 年 8 月)とずれがあり、キャッシュレス化が現在も進行していることが差異に影響した可能性もある。

図 4-2 世帯の年間所得階層別にみたキャッシュレス決済比率



(注) n=2,403

4.3. 試算の方法

キャッシュレス決済比率の試算方法については、以下のとおりである。

- ① 世帯の年間所得階層別に、品目ごとの支払方法の割合を算出する。支払方法別の割合は、図 3-1～3-4 で示しているが、実際には、世帯の所得階層ごとの計数を使用している。また、保険料と税金は全国家計構造調査と同様、消費支出から除いている。
- ② ①に、2019 年全国家計構造調査から得られる、年間収入階層別の品目ごとの 1 か月あたり平均の世帯消費支出額(単身世帯を含めた総世帯ベース)を乗じることで、品目ごとの支払方法別の支出額を算出する。もっとも、全国家計構造調査の品目数と本アンケート調査の品目数を比べると、全国家計構造調査の方が多いため、全国家計構造調査の品目を本アンケート調査の品目に振り分けることで、本アンケート調査の品目の消費支出額を年間所得階層別に算出した。
- ③ 次に、年間所得階層ごとに、支払い方法別の支出金額を全品目で足し上げて、平均 1 世帯あたりの支払い方法別の支出額を算出した。そのうち、現金以外の支払金額の合計を、消費支出額で除すことで、平均 1 世帯あたりのキャッシュレス決済比率を世帯の年間所得階層別に求めた。
- ④ さらに、全体平均のキャッシュレス決済比率の算出にあたっては、全国家計構造調査の世帯

年収別の世帯数分布に従い、年間収入階層別の平均支出総額を乗じたものでウェイト付けして、加重平均した。これは日本の所得分布を前提に推計したいと考えたからである。

- ⑤ なお、本アンケート調査結果では、世帯の年間所得が「わからない」と回答した人の割合も一定程度いる。そのデータも生かすために、所得がわからない人たちの平均支出総額は、全国家計構造調査の全体平均と同じであると仮定した。④と⑤のキャッシュレス決済比率の計数を、本アンケート調査で年収を回答した人と回答しなかった人の割合でウェイト付けして加重平均を算出した。

5. 時系列の変化

5.1. 2018 年調査結果との比較

本アンケート調査は、2018 年 8 月に NIRA 総研が実施した「キャッシュレス決済実態調査」の 2 回目の調査であり、調査設計や推計方法も前回のを踏襲している。そこで、前回 2018 年調査と今回 2023 年調査とで結果の比較を行う。

全体のキャッシュレス決済比率は 51.2%から 70.6%と 19.3%ポイント増加した(表 5-1)。内訳としては、「クレジットカード」が 10.1%ポイント増加し、「QR コード・バーコード決済」と「スマホやスマートウォッチによるタッチ決済」を合わせた「QR バーコード+タッチ決済」(その他フィンテックサービス)が 8.6%ポイント増加、キャッシュカードでの振込が 0.5%ポイント増加した。一方、口座引き落としは 0.3%ポイント減少した。

表 5-1 キャッシュレス決済比率の 5 年前との比較

	2023	2018	差
キャッシュレス決済比率	70.6	51.2	19.3
(内訳)			
クレジットカード	41.1	31.0	10.1
口座引き落とし	10.0	10.4	-0.3
QRバーコード+タッチ決済	9.2	0.7	8.6
プリペイド式電子マネー	4.9	4.9	0.0
インターネットバンキング	1.5	1.5	0.1
デビットカード	1.4	0.8	0.6
キャッシュカードで振込	1.4	0.9	0.5
その他現金以外	0.7	0.8	0.0
給与天引き	0.2	0.2	-0.1
NFT・暗号資産	0.0	0.1	-0.1

(注) サンプル数は 2018 年 が 3,000、2023 年 が 2,403。調査対象者は 2018 年 が 20~69 歳、2023 年 が 18~79 歳。2018 年の推計では「平成 24 年住民基本台帳人口要覧」に基づき、性別(男女)、年齢(5 区分)、居住地(6 地域)別の回答者数の構成比を算出し、その分布に基づいてサンプルを回収した。2023 年の推計の詳細は 8 章を参照のこと。「QR バーコード+タッチ決済」(「QR コード・バーコード決済」と「スマホやスマートウォッチによるタッチ決済」の合計)は、2018 年調査では「その他フィンテックサービス」としてたずねた。

なお、前回調査との違いとして、①調査対象が 20~69 歳から 18~79 歳に拡大している、②サテスマファイサー(省力回答者)を除外するトラップ設問を設け、正答者のみを集計している、③集

計の際のウェイトに有職・無職比率を考慮している、④支払手段として前回調査で聞いていた「その他のフィンテックサービス」に替わり「QRコード・バーコード決済」、「スマホやスマートウォッチによるタッチ決済」を追加し、「仮想通貨」を「NFT・暗号資産」に変更している、⑤品目に前回調査にはなかった「航空運賃」、「有料道路料」を追加している点に留意されたい。

5.2. コロナ禍の前後での支払方法の変化

Q15. あなたは、コロナ禍の前後で支払いの方法が変わったと思いますか。(1つだけ)

- (1) コロナ禍以前から主に現金で支払っており、今も変わらない
- (2) コロナ禍以前は主に現金で支払っていたが、現金以外(キャッシュレス)で支払う方が多くなった
- (3) コロナ禍以前から主に現金以外(キャッシュレス)で支払っており、今も変わらない
- (4) コロナ禍以前は主に現金以外(キャッシュレス)で支払っていたが、現金で支払う方が多くなった
- (5) わからない・覚えていない

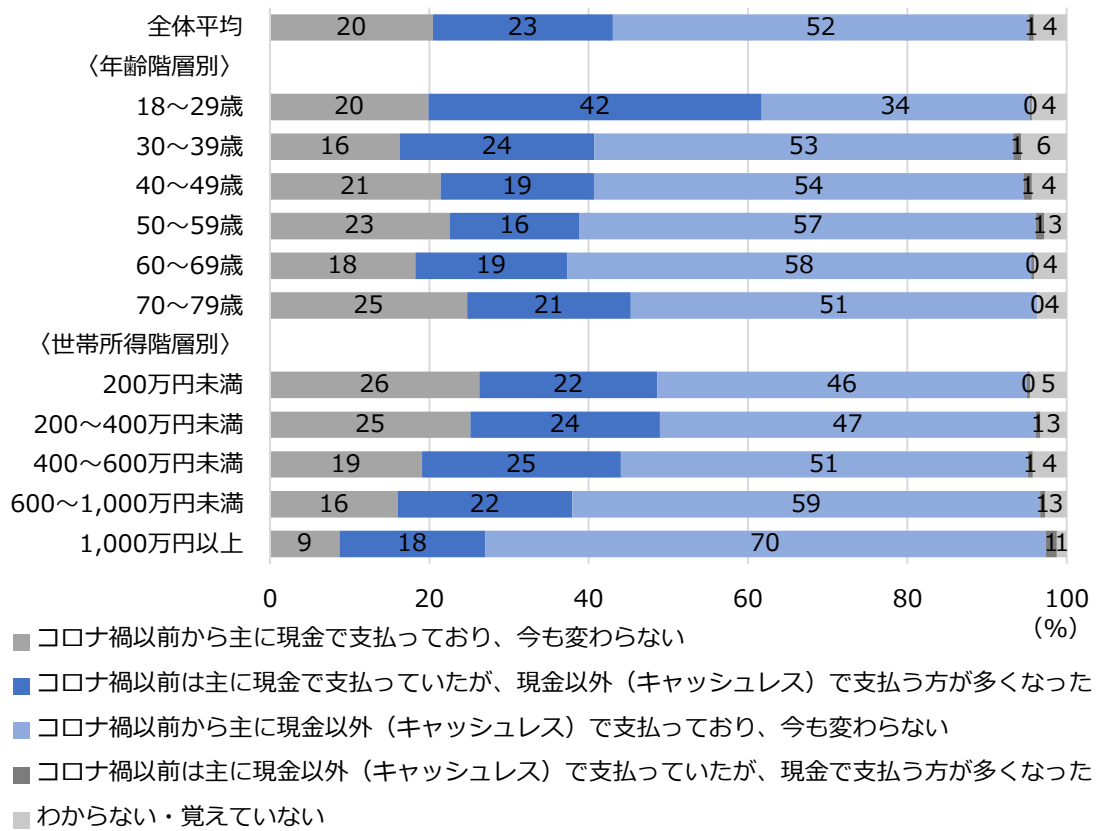
新型コロナウイルスの感染対策として、ソーシャルディスタンスや外出等の行動制限が要請された中で、オンラインサービスの利用が活発化するなど、人びとの消費行動にも変化があったと考えられる。そこで今回のアンケート調査では、コロナ禍の前後での支払方法の変化についてもたずねた。

全体として、「コロナ禍以前から主に現金以外(キャッシュレス)で支払っており、今も変わらない」と答えた人の割合は 52%で、2018 年時点のキャッシュレス決済比率に近い値である(図 5-2)。「コロナ禍以前は主に現金で支払っていたが、現金以外(キャッシュレス)で支払う方が多くなった」と答えた人の割合は 23%で、「コロナ禍以前から主に現金で支払っており、今も変わらない」人の割合は 20%となっている。

年齢階層別にみると、18～29 歳は現金からキャッシュレスに切り替えた人の割合が 42%と、他の年齢層より多い。他の年齢層は全体平均の構成と大きな違いはみられない。

所得階層別にみると、所得が高いほどコロナ禍以前からキャッシュレスを主に使い、現在も変わらないという人の割合が多い。1,000 万円未満の層では現金からキャッシュレスに切り替えた人の割合は 22～25%で大きな違いはないが、400 万円未満の層ではコロナ禍前後で変わらず現金を主に使う人の割合が 25%程度と若干多い。

図 5-2 コロナ禍の前後での支払方法の変化



(注) サンプル数は全体で 2,403。

6. キャッシュレスに対する意識

今回の調査では、キャッシュレスに関連する最近の論点についてもたずねた。

まず、昨今様々な国で議論されている「中央銀行デジタル通貨 (CBDC: Central Bank Digital Currency)」について、人びとがどの程度関心があるかを探るべく、以下の質問をたずねた¹¹。

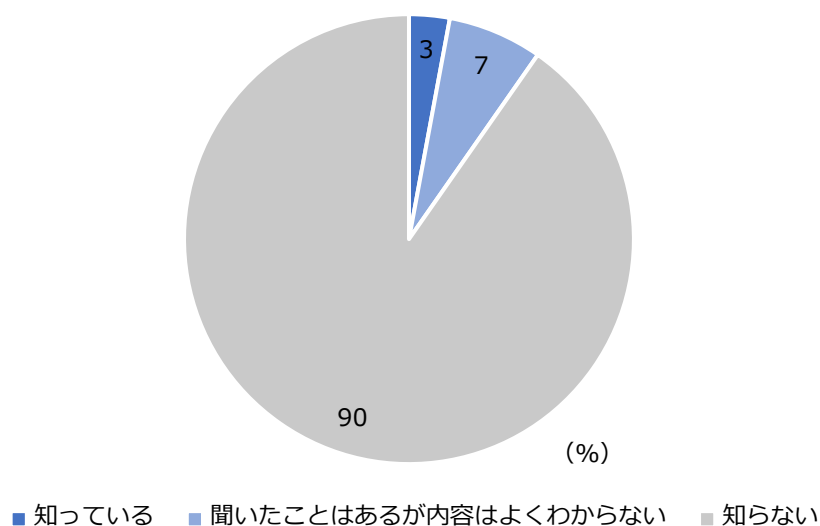
Q21. あなたは、「CBDC」という言葉を知っていますか。(1つだけ)

- (1) 知っている
- (2) 聞いたことはあるが内容はよくわからない
- (3) 知らない

¹¹ 中央銀行デジタル通貨 (CBDC) とは、(1) デジタル化されていること、(2) 円などの法定通貨建てであること、(3) 中央銀行の債務として発行されること、の 3 つを満たすものとされる。日本は現時点で CBDC を発行する計画はないが、日本銀行では今後の様々な環境変化に的確に対応できるよう、実証実験などを行っている。(日本銀行ホームページより)

CBDCを「知っている」と答えた人の割合は3%で、「(2) 聞いたことはあるが内容はよくわからない」と合わせても10%であった(図6-1)。現在のところ、人びとの関心はそれほど高くないことがうかがえる。

図6-1 CBDCへの認識



(注)n=2,403

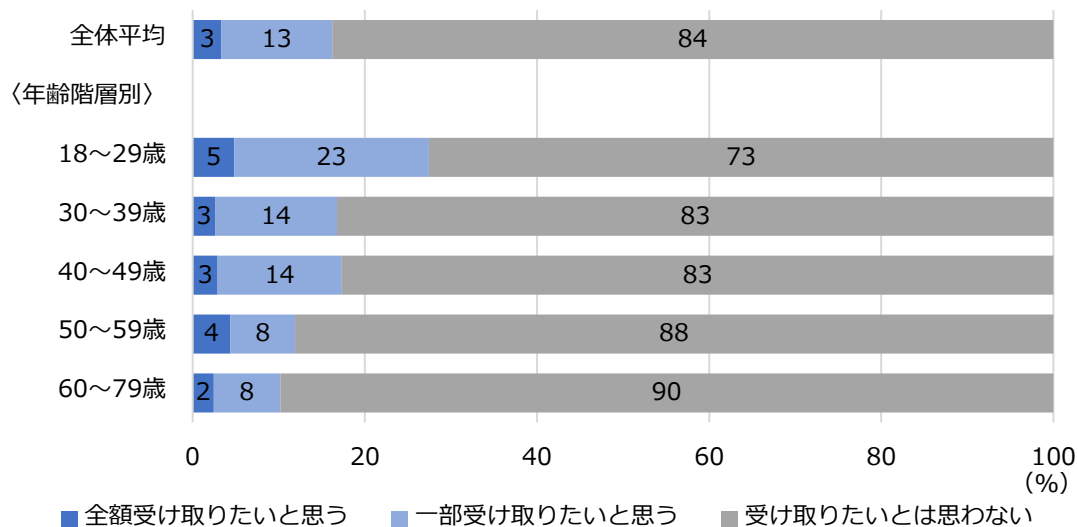
次に、2023年4月から解禁された「デジタル給与(給与デジタル払い)」について、個人の考えをたずねた。

Q22. 2023年4月から給与を電子マネーで受け取ることができるようになりました。あなたは給与の一部または全てを、現金の代わりに電子マネーで受け取りたいと思いますか。(1つだけ)

- (1) 全額受け取りたいと思う
- (2) 一部受け取りたいと思う
- (3) 受け取りたいとは思わない
- (4) そもそも、給与の受け取りはない

「そもそも、給与の受け取りはない」と答えた人を除いたサンプルで集計したところ、給与を電子マネーで「全額受け取りたいと思う」人の割合は3%で、「一部受け取りたいと思う」と合わせても16%にとどまった(図6-2)。しかし、18~29歳の層では、「全額受け取りたいと思う」人が5%、「一部受け取りたいと思う」人が23%と、3割近くがデジタル給与に興味を示している。

図 6-2 デジタル給与の受け取りの希望



(注) サンプルは全体で 1,563。18～29 歳は 259、30 代は 266、40 代は 372、50 代は 311、60 歳～79 歳は 355。

7. ポイントサービスに対する意識

図 1-1-2 において、ポイントサービスを「よく利用している」人が 48%、「ときどき利用している」人が 41%いた。ここからは、ポイントサービスに対する意識について掘り下げていく。

まず、ポイントサービスの利用状況を把握するべく、以下の 2 つの質問をたずねた。

Q23. あなたは何種類のポイントサービスを利用していますか。(1つだけ)

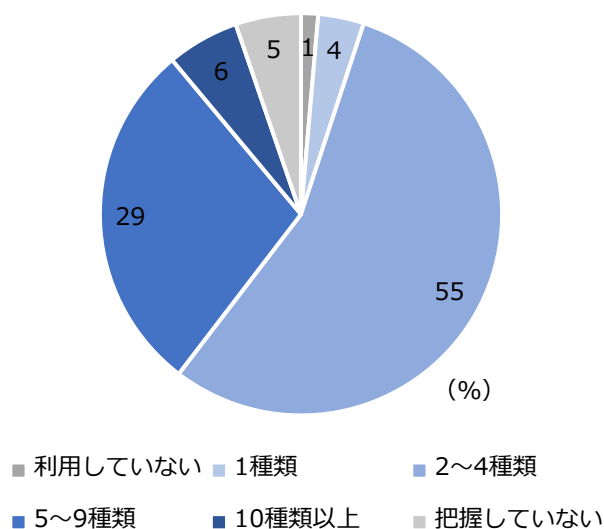
- (1) 利用していない
- (2) 1 種類
- (3) 2～4 種類
- (4) 5～9 種類
- (5) 10 種類以上
- (6) 把握していない

Q24. あなたは複数の加盟店・企業等が連携する共通ポイントサービス(楽天ポイント、PayPay ポイント、d ポイント等)を利用していますか。航空会社のマイレージ等個別企業によるポイントサービスは含みません。(1つだけ)

- (1) よく利用している
- (2) ときどき利用している
- (3) ほとんど利用していない
- (4) 全く利用していない

利用しているポイントサービスの数については、「2～4 種類」と答えた人の割合が最も多く 55%で、次いで「5～9 種類」が 29%であった(図 7-1)。ほとんどの人が複数種類のポイントサービスを利用している。

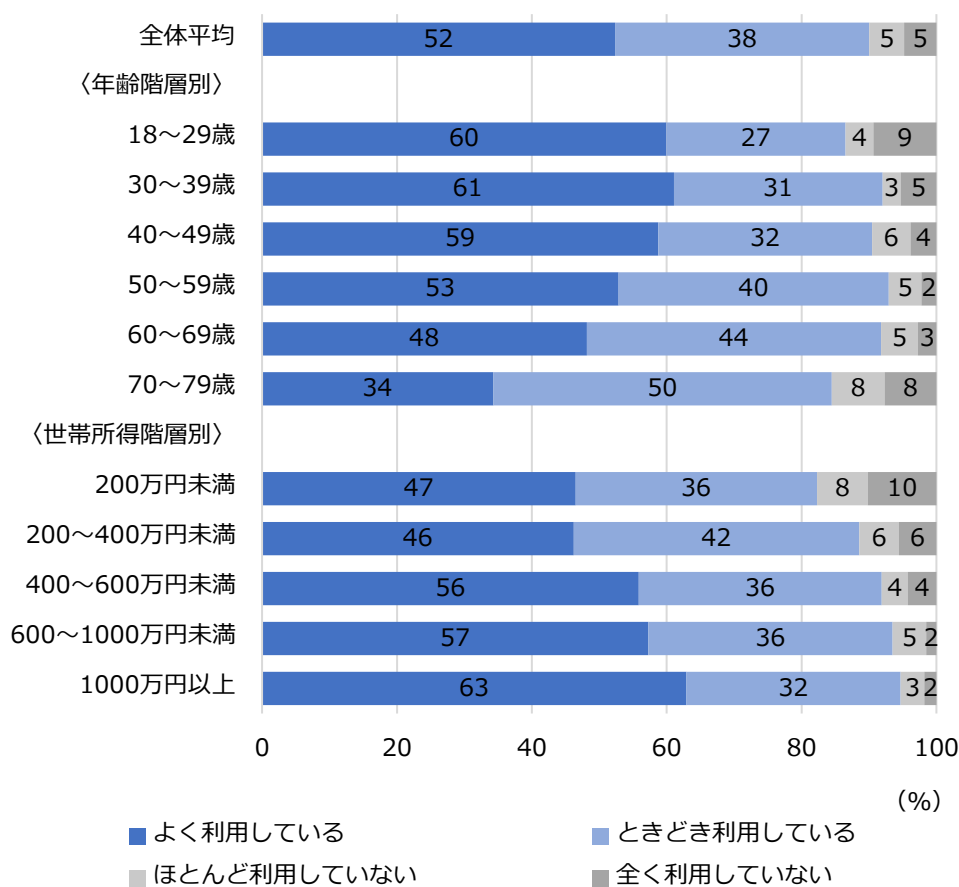
図 7-1 利用しているポイントサービスの種類



(注)n=2,403

共通ポイントサービスの利用については、「よく利用している」と答えた人の割合が 52%、「ときどき利用している」人は 38%で非常に多い(図 7-2)。ただし、年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「よく利用している」と答えた人の割合が下がる傾向にある。所得階層別では所得が高いほど共通ポイントをよく利用している傾向がみられる。

図 7-2 共通ポイントサービスの利用



(注) サンプル数は全体で 2,403。

次に、ポイントサービスについての考え方を把握するため、以下の質問をたずねた。

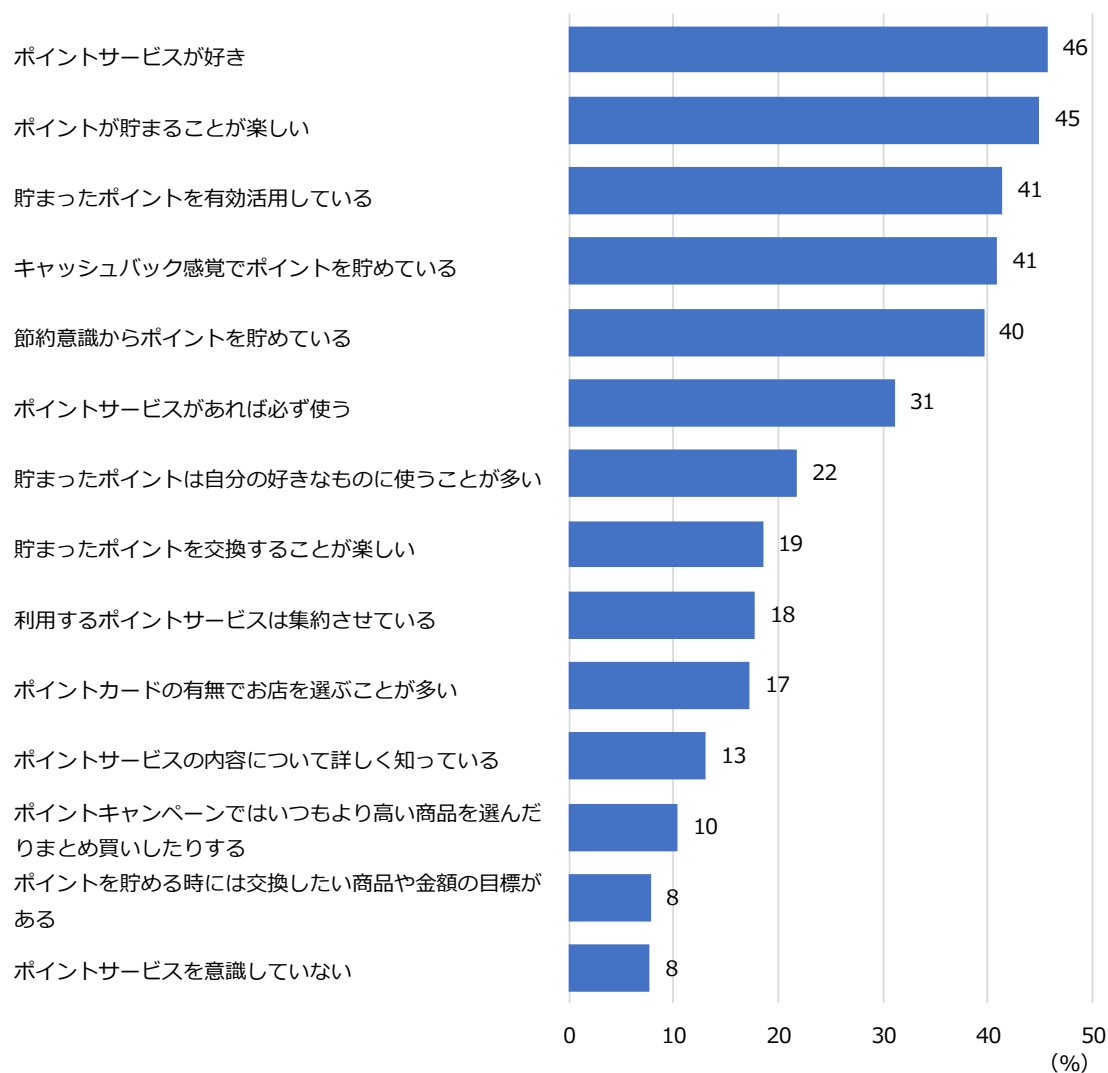
Q25. あなたはポイントに関して、どのような考えを持っていますか。(いくつでも)

- (1) ポイントサービスが好き
- (2) ポイントサービスの内容について詳しく知っている
- (3) キャッシュバック感覚でポイントを貯めている
- (4) 節約意識からポイントを貯めている
- (5) ポイントカードの有無でお店を選ぶことが多い
- (6) ポイントを貯める時には交換したい商品や金額の目標がある
- (7) ポイントキャンペーンではいつもより高い商品を選んだりまとめ買いしたりする
- (8) ポイントが貯まるのが楽しい
- (9) ポイントサービスがあれば必ず使う
- (10) 利用するポイントサービスは集約させている

- (11) 貯まったポイントを有効活用している
- (12) 貯まったポイントを交換することが楽しい
- (13) 貯まったポイントは自分の好きなものに使うことが多い
- (14) ポイントサービスを意識していない

複数回答可としたこの質問において、最も多く挙げられたのは、「ポイントサービスが好き」(46%)、「ポイントが貯まるのが楽しい」(45%)で、ポイントサービス自体に楽しさを見出している人が多いことがわかる(図 7-3)。つづいて挙げられたのは「貯まったポイントを有効活用している」(42%)、「キャッシュバック感覚でポイントを貯めている」(41%)、「節約意識からポイントを貯めている」(40%)で、ポイントサービスに経済的なメリットを感じている人も多い。

図 7-3 ポイントサービスについての考え方



(注) n=2,403

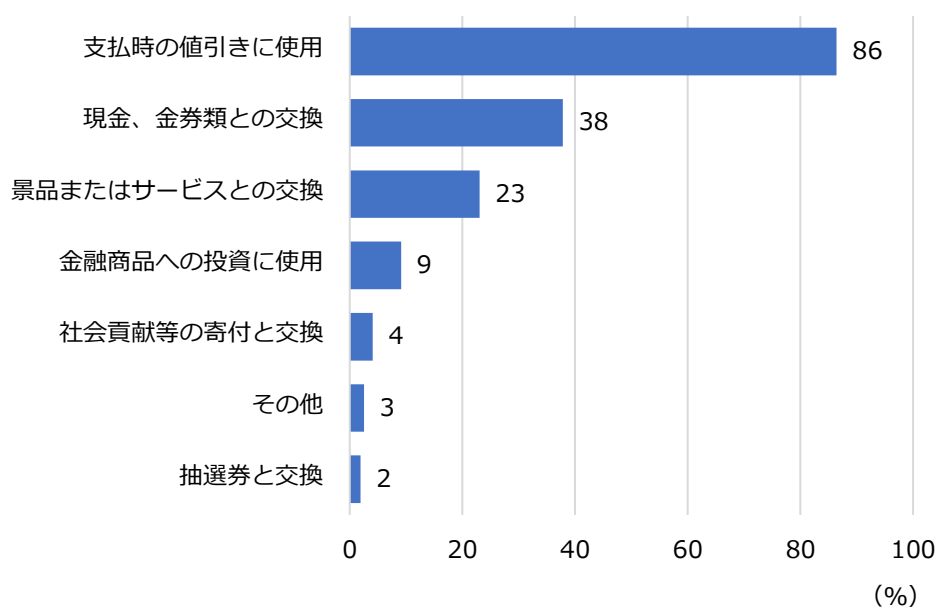
さらに、貯まったポイントの使い道についてもたずねた。

Q26. 貯まったポイントをどのように使っていますか。(いくつでも)

- (1) 支払時の値引きに使用
- (2) 景品またはサービスとの交換
- (3) 現金、金券類との交換
- (4) 抽選券と交換
- (5) 社会貢献等の寄付と交換
- (6) 金融商品への投資に使用
- (7) その他

ポイントの使い道として最も多かったのは、「支払時の値引きに使用」で 86%、次いで「現金、金券類との交換」が 38%、「景品またはサービスとの交換」が 23%となっている(図 7-4)。

図 7-4 ポイントの利用方法



(注) サンプルは Q23 でポイントサービスを「利用していない」と答えた人を除く 2,370。

Ⅱ 調査概要

1. 調査の趣旨・目的

キャッシュレス決済に関するアンケート調査は、個人の消費における決済に関してファクトファイディングを整理し、消費行動の実態に即したキャッシュレス決済比率を推計することを目的としたものである。コロナ禍を経ての日本のキャッシュレス化の進展やポイント経済圏の現状などを把握し、今後の金融サービスのあり方について議論する上で役立つものと期待される。

本調査は、2018年8月9日～8月14日に実施した「キャッシュレス決済実態調査」に続く、第2回目の調査である。5年間でのキャッシュレス社会の進展状況や消費者の意識の変化を分析することが可能である。

2. 調査名

「キャッシュレス決済に関するアンケート」

3. 主な調査項目

- ・ 日常的に利用する支払手段
- ・ 品目別の直近に利用した支払手段
- ・ 利用したい支払手段
- ・ 現金を利用したい理由
- ・ 普段持ち歩く現金の金額
- ・ ポイントサービスの利用状況
- ・ ポイントサービスへの考え方

4. 調査期間

2023年8月23日(水)～2023年8月28日(月)

5. 調査方法

- (1) 実施方法: インターネット調査¹²
- (2) 調査機関: 株式会社日経リサーチ
- (3) 調査対象者: 日経リサーチモニター、提携モニター併用

6. 回収数

総数: 3,000 件

うち有効回答数(トラップ設問をクリアした人)は 2,403 件¹³

¹² 2020年の総務省『国勢調査』の結果に基づき、性別(2分類)、年齢(5分類)、地域(6分類)について、人口構成比に応じて割り付け(合計60セル)を実施した。

¹³ トラップ設問については注1参照のこと。

7. 本報告書の集計方法

集計結果の代表性を保つために、本報告書では総務省「国勢調査(2020年)」および「労働力調査(2022年)」を母集団とみなして、サンプリングバイアスを補正するために母集団ウェイトを作成した。具体的には、「国勢調査(2020年)」の18歳以上79歳以下の日本在住者に限定した性別(男性、女性)、年齢階層(18～39歳、40～59歳、60歳以上の3階層)、居住地域(東日本、京浜、中日本、阪神、西日本の5地域)、および「労働力調査(2022年)」の労働力状態(有職か無職か)の分布をもとに、レイキング法によりウェイトを作成した¹⁴。本報告書の集計結果は、上述した母集団ウェイトを用いて集計したものである。

8. 回答者の属性

		第1回調査	第2回調査
		2018	2023
		n=	n=
		3,000	2,403
		(%)	
性別	男性	50.3	49.5
	女性	49.7	50.5
年齢	18～19歳	0.0	1.2
	20～29歳	16.4	12.2
	30～39歳	21.3	13.4
	40～49歳	21.0	19.1
	50～59歳	19.1	17.0
	60～69歳	22.2	23.2
	70～79歳	0.0	13.9
世帯の年間所得	200万円未満	9.3	10.2
	200～400万円未満	19.2	22.5
	400～600万円未満	21.3	18.6
	600～1,000万円未満	23.3	20.8
	1,000万円以上	11.7	12.2
	わからない	15.2	15.8

9. 研究体制

翁百合	NIRA 総研 理事／日本総合研究所 理事長
神田 玲子	NIRA 総研 理事・研究調査部長
関島 梢恵	NIRA 総研 研究コーディネーター・研究員
鈴木 壮介	NIRA 総研 研究コーディネーター・研究員

¹⁴ ここでの有職の定義は、「通学のかたわらに仕事」を除く就業者として、家事のかたわらに仕事、休業者を含むものとした。本調査では職業をたずねる設問にて、休職者には休職前の職業を答えてもらい、学生や家事のかたわらにパートタイムで就労している人にもそれぞれ選択肢を用意した。

付録 質問票と単純集計結果

Q1. 現在の年齢はおいくつですか。(ひとつだけ)

	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳
人	15	15	9	25	22	25	22	21	33	41	42	53
%	0.6	0.6	0.4	1.0	0.9	1.1	0.9	0.9	1.4	1.7	1.7	2.2
	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳		
人	14	19	20	21	36	33	44	29	52	53		
%	0.6	0.8	0.8	0.9	1.5	1.4	1.8	1.2	2.2	2.2		
	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳		
人	32	32	34	44	36	53	39	57	64	68		
%	1.3	1.3	1.4	1.9	1.5	2.2	1.6	2.4	2.7	2.8		
	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳		
人	48	38	45	39	30	48	32	29	54	46		
%	2.0	1.6	1.9	1.6	1.3	2.0	1.3	1.2	2.2	1.9		
	60歳	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳	66歳	67歳	68歳	69歳		
人	49	64	67	69	63	46	52	42	60	46		
%	2.1	2.7	2.8	2.9	2.6	1.9	2.2	1.8	2.5	1.9		
	70歳	71歳	72歳	73歳	74歳	75歳	76歳	77歳	78歳	79歳		
人	41	37	43	50	44	36	34	19	15	15		
%	1.7	1.5	1.8	2.1	1.8	1.5	1.4	0.8	0.6	0.6		

Q2. あなたの性別をお答えください。(ひとつだけ)

	男性	女性
人	1189	1214
%	49.5	50.5

Q3. あなたがお住まいの都道府県について、あてはまるものをお答えください。(ひとつだけ)

	北海道	青森県	秋田県	岩手県	山形県	宮城県	福島県	群馬県	栃木県	茨城県	千葉県	東京都
人	163	27	16	17	19	45	16	23	21	32	131	294
%	6.8	1.1	0.7	0.7	0.8	1.9	0.7	0.9	0.9	1.3	5.5	12.2

	神奈川県	埼玉県	新潟県	富山県	石川県	福井県	長野県	山梨県	岐阜県	静岡県	愛知県	滋賀県
人	161	149	30	20	21	10	37	10	36	78	154	18
%	6.7	6.2	1.3	0.8	0.9	0.4	1.6	0.4	1.5	3.3	6.4	0.8

	三重県	和歌山県	京都府	大阪府	奈良県	兵庫県	香川県	徳島県	高知県	愛媛県	広島県	岡山県
人	30	12	66	164	27	108	16	7	6	16	73	47
%	1.2	0.5	2.8	6.8	1.1	4.5	0.7	0.3	0.3	0.7	3.0	2.0

	鳥取県	島根県	山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	大分県	熊本県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
人	6	5	24	146	12	22	13	21	18	21	18
%	0.3	0.2	1.0	6.1	0.5	0.9	0.5	0.9	0.8	0.9	0.8

Q4. あなたが最後に在籍した(または現在、在籍している)学校はこの中のどれにあたりますか。(ひとつだけ)

	中学	高校	専門学校	短大・高専	大学	大学院	その他
人	39	523	192	249	1197	196	7
%	1.6	21.8	8.0	10.4	49.8	8.2	0.3

Q5. あなたの職業は、この中のどれにあたりますか。休職中の方は、休職前の職業をお選びください。(ひとつだけ)

	会社勤務 (正社員)	会社勤務 (契約社員 等)	会社勤務 (派遣社員)	会社勤務 (パート・ア ルバイト)	会社経営者	団体職員・ 公務員	個人事業主	専門職(医 師、弁護士、 教授等)
人	649	88	60	275	32	119	117	56
%	27.0	3.6	2.5	11.4	1.3	4.9	4.9	2.3

	その他自営・ 自由業	専業主婦・主 夫	学生	無職(年金生 活者を含む)	その他
人	94	377	91	421	25
%	3.9	15.7	3.8	17.5	1.1

Q6A. 業種をお答えください。(ひとつだけ)

	農林水産・鉱 業	建設業	製造業	電気・ガス・ 熱供給・水道 業	通信業	放送業	情報サービ ス業	インターネッ ト附随サービ ス業
人	19	66	256	22	17	1	96	29
%	1.3	4.4	17.2	1.5	1.2	0.1	6.5	1.9

	映像・音声・ 文字情報制作 業(新聞業、 出版業等)	その他の情報 通信業	広告業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	物品賃貸業 (リース、レ ンタル等)
人	8	2	48	154	66	48	2	7
%	0.5	0.1	3.3	10.4	4.5	3.2	0.1	0.5

	宿泊業	飲食サービ ス業	医療業(病 院、診療所 等)	保健衛生・社 会保険・社会 福祉・介護事 業医療、福祉	学校教育(幼 稚園、小学 校、中学校、 高校、大学 等)	学習支援(学 習塾等)	郵便局※	協同組合
人	31	67	51	63	29	3	3	48
%	2.1	4.5	3.5	4.2	2.0	0.2	0.2	3.3

	専門サービ ス業(法律事務 所、特許事務 所、コンサル タント業等)	学術・開発研 究機関	旅行業	生活関連サー ビス業	娯楽業	その他のサー ビス業	公務(他に分 類されるもの は除く)	分類不能の産 業
人	13	1	30	8	181	74	39	39
%	0.9	0.1	2.1	0.6	12.2	5.0	2.7	2.7

※ただし、主として信書の送達を行う事業所にお勤めの方は「通信業」に回答願います。

Q6B. あてはまる職種をお答えください。(ひとつだけ)

	管理職	専門・技術職	事務職	営業・販売・サービス・保安職	農林漁業職	生産・輸送・建設・労務職	その他
人	174	336	448	212	12	126	174
%	11.8	22.7	30.2	14.3	0.8	8.5	11.7

Q7. 昨年 1 年間の、あなたの世帯全員(単身赴任者を含む)の給料、年金、その他全ての年収をあわせるとどのくらいになりますか。税金等を引かれる前の金額でお答えください。(ひとつだけ)

	200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～800万円未満	800～1,000万円未満	1,000～1,250万円未満
人	244	247	294	229	217	299	202	136
%	10.2	10.3	12.2	9.5	9.1	12.4	8.4	5.7

	1,250～1,500万円未満	1,500万円以上
人	65	91
%	2.7	3.8

Q8. 現在、あなたと同居している人をお答えください。(いくつでも)

	配偶者(事実婚を含む)	未成年の子ども	成年の子ども	父母(義理の父母含む)	兄弟姉妹	祖父母(義理の祖父母含む)	孫	その他
人	1318	320	354	631	222	39	19	26
%	100.0	24.3	26.9	47.9	16.8	3.0	1.4	2.0

	同居している人はいない
人	444
%	33.7

Q9. あなたの家の家計は誰が管理していますか。(ひとつだけ)

	自身(回答者)が家計を管理	配偶者が家計を管理	自身と配偶者で共同管理	それぞれ個人で個別に管理	その他(親、子ども等)
人	1213	323	280	274	312
%	50.5	13.5	11.6	11.4	13.0

Q10. 私たちは様々な情報源を通して、国内外で起こっていることを知ります。以下にあげる情報源から、あなたはどのくらいの頻度で情報を得ていますか。(それぞれひとつずつ)

		ほぼ毎日	週2・3 回程度	週1回 程度	月1回 程度	月1回未 満	全くない
1. 新聞（有料の電子版を含む）	人	1092	121	74	40	149	928
	%	45.5	5.0	3.1	1.7	6.2	38.6
2. 雑誌（有料の電子版を含む）	人	53	104	227	236	476	1308
	%	2.2	4.3	9.4	9.8	19.8	54.5
3. テレビ	人	1836	215	84	25	62	181
	%	76.4	8.9	3.5	1.0	2.6	7.5
4. ラジオ	人	412	302	229	102	275	1082
	%	17.2	12.6	9.5	4.3	11.5	45.0
5. インターネット（LINE、YouTube、X（旧Twitter）等のSNS、ブログ、ニュースアプリ含む）	人	2083	186	48	14	20	53
	%	86.7	7.7	2.0	0.6	0.8	2.2
6. 家族や知人からの話	人	881	612	386	154	135	234
	%	36.7	25.5	16.1	6.4	5.6	9.8

Q11. 以下の項目について、あなたは、日常的に使っていますか。(それぞれひとつずつ)

		よく利用して いる	ときどき利用 している	ほとんど利用 したことはない	全く利用しな い
1. クレジットカード	人	1438	688	53	224
	%	59.9	28.6	2.2	9.3
2. デビットカード	人	116	225	297	1765
	%	4.8	9.4	12.3	73.5
3. プリペイド（前払い）式の電子マネー（Suica等交通系電子マネー、楽天Edy、nanaco、WAON等）	人	623	963	222	595
	%	25.9	40.1	9.2	24.8
4. QRコード・バーコード決済（PayPay、楽天ペイ、LINE Pay、au PAY等）	人	821	714	164	703
	%	34.2	29.7	6.8	29.3
5. スマホやスマートウォッチによるタッチ決済（Apple Pay、Google Pay、iD、QUICPay等）	人	199	341	214	1649
	%	8.3	14.2	8.9	68.6
6. オートチャージ機能（ICカード等の、残高が減ると銀行口座から一定金額チャージされる機能）	人	191	274	142	1796
	%	8.0	11.4	5.9	74.7
7. ポイントサービス（楽天ポイント、Pontaポイント、dポイント、PayPayポイント、マイル等）	人	1164	981	75	183
	%	48.4	40.8	3.1	7.6
8. パソコン	人	1950	263	47	144
	%	81.1	10.9	2.0	6.0
9. スマホ・携帯電話	人	1977	238	47	141
	%	82.3	9.9	2.0	5.9
10. NFT・暗号資産	人	33	61	113	2196
	%	1.4	2.6	4.7	91.4

Q12. あなたは普段、現金をいくら持ち歩きますか。(ひとつだけ)

	現金は持ち歩 かない	1,000円未満 （小銭）	1,000円以上 5,000円未満	5,000円以上 10,000円未 満	10,000円以 上20,000円 未満	20,000円以 上30,000円 未満	30,000円以 上
人	65	90	545	616	604	235	248
%	2.7	3.7	22.7	25.6	25.1	9.8	10.3

Q13. 商品やサービスの購入時の支払い手段について、あなたの考えにあてはまるものを一つ選んでください。(ひとつだけ)

	できるだけ現金で支払いたい	できるだけクレジットカードで支払いたい	できるだけデビットカードで支払いたい	できるだけ電子マネー(交通系電子マネー等)で支払いたい	できるだけQRコード・バーコード決済(PayPay等)で支払いたい	上記以外の方法で支払いたい	わからない
人	460	961	50	253	592	8	80
%	19.1	40.0	2.1	10.5	24.6	0.3	3.3

Q14. できるだけ現金で支払いたいのは、なぜですか。(ひとつだけ)

	現金以外で支払う必要がないから	現金以外の方法は、セキュリティが不安だから	現金以外の方法は、紛失・盗難が不安だから	現金以外の方法は、お金を使っている感覚がせず、使いすぎてしまうから	現金以外の方法は、支払いの手続きが面倒だから	現金以外の方法は、残高やパスワードが管理しにくいから	現金以外の支払方法は、使える場面が少ないから	スマートフォン、パソコン等を持っていないから
人	103	61	13	192	28	18	15	7
%	22.4	13.3	2.9	41.9	6.1	4.0	3.2	1.5

	現金以外の方法で支払いたい、やり方がわからないから	その他
人	4	17
%	0.9	3.8

Q15. あなたは、コロナ禍の前後で支払いの方法が変わったと思いますか。(ひとつだけ)

	コロナ禍以前から主に現金で支払っており、今も変わらない	コロナ禍以前は主に現金で支払っていたが、現金以外(キャッシュレス)で支払う方が多くなった	コロナ禍以前から主に現金以外(キャッシュレス)で支払っており、今も変わらない	コロナ禍以前は主に現金以外(キャッシュレス)で支払っていたが、現金で支払う方が多くなった	わからない・覚えていない
人	491	543	1254	15	99
%	20.5	22.6	52.2	0.6	4.1

Q16. 日常的な買い物において、以下の商品やサービスを購入した時、あなたはどのような手段で支払いましたか。直近の支払いについてお答えください。

※PayPay 等、QR コードを読み込んで支払った場合は、QR コード決済とお答えください。また、ネットでの購入の場合は、クレジットカード、口座振り込みなど、最終的な決済手段をお答えください。(それぞれひとつずつ)

		支払っていない	現金（代金引換・現金振込を含む）	クレジットカード	デビットカード	プリペイド（前払い）式の電子マネー（※1）	QRコード・バーコード決済（※2）	スマホやスマートウォッチによるタッチ決済（※3）	ATM・銀行窓口にてキャッシュカード等で支払先の口座に振込	インターネットバンキングにて支払先の口座に振込	NFT・暗号資産	その他の方法で現金を利用	その他の方法で現金以外の方法を利用
1. 食料品（飲料、外食は除く）	人	78	608	855	44	342	400	50	4	0	1	6	15
	%	3.2	25.3	35.6	1.8	14.2	16.7	2.1	0.2	0.0	0.0	0.3	0.6
2. 飲料（外食を除く。小売店や自動販売機での購入）	人	163	844	503	33	306	449	77	2	1	1	10	14
	%	6.8	35.1	20.9	1.4	12.7	18.7	3.2	0.1	0.0	0.0	0.4	0.6
3. 外食（飲酒代を含む）	人	257	610	936	36	78	422	48	2	0	1	7	5
	%	10.7	25.4	39.0	1.5	3.3	17.6	2.0	0.1	0.0	0.0	0.3	0.2
4. 日用品（台所用用品、トイレトーパー、洗剤、シャンプー等）	人	124	573	890	49	217	473	47	2	0	1	9	17
	%	5.2	23.9	37.1	2.0	9.0	19.7	2.0	0.1	0.0	0.0	0.4	0.7
5. 身の回り品（腕時計、アクセサリー、傘、かばん等）	人	410	349	1333	51	53	165	19	1	5	1	6	10
	%	17.1	14.5	55.5	2.1	2.2	6.9	0.8	0.0	0.2	0.0	0.3	0.4
6. 被服、履物	人	245	410	1399	59	55	191	20	1	5	1	6	11
	%	10.2	17.1	58.2	2.5	2.3	7.9	0.8	0.0	0.2	0.0	0.3	0.4
7. 自動車等維持費（ガソリン、整備費用等。ただし、駐車場代金は除く）	人	879	339	1002	19	47	67	15	8	8	1	2	15
	%	36.6	14.1	41.7	0.8	2.0	2.8	0.6	0.3	0.3	0.0	0.1	0.6
8. レンタカー等自動車関連サービス	人	1704	97	538	10	4	28	3	1	1	1	3	13
	%	70.9	4.0	22.4	0.4	0.2	1.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.6
9. 医療・介護関連サービス（おむつ、眼鏡、医療費、マッサージ、人間ドッグ、介護サービス料等）	人	624	996	651	26	20	58	8	5	1	1	7	7
	%	26.0	41.4	27.1	1.1	0.8	2.4	0.3	0.2	0.0	0.0	0.3	0.3
10. バス、鉄道運賃（定期券代は除く）	人	536	461	228	35	953	39	86	4	0	1	14	45
	%	22.3	19.2	9.5	1.5	39.7	1.6	3.6	0.2	0.0	0.0	0.6	1.9
11. タクシー代	人	1262	504	404	13	47	118	27	1	1	1	9	16
	%	52.5	21.0	16.8	0.5	2.0	4.9	1.1	0.0	0.0	0.0	0.4	0.7

		支払っていない	現金（代金引換・現金振込を含む）	クレジットカード	デビットカード	プリペイド（前払い）式の電子マネー（※1）	QRコード・バーコード決済（※2）	スマホやスマートウォッチによるタッチ決済（※3）	ATM・銀行窓口にてキャッシュカード等で支払先の口座に振込	インターネットバンキングにて支払先の口座に振込	NFT・暗号資産	その他の方法で現金を利用	その他の方法で現金以外の方法を利用
12. 航空運賃	人	1368	56	917	20	4	10	2	5	8	1	3	9
	%	56.9	2.3	38.2	0.8	0.2	0.4	0.1	0.2	0.3	0.0	0.1	0.4
13. 有料道路料※	人	1191	98	1055	29	3	7	5	4	0	1	3	8
	%	49.6	4.1	43.9	1.2	0.1	0.3	0.2	0.2	0.0	0.0	0.1	0.3
14. 郵便、運送料	人	530	1268	240	17	92	194	23	1	3	1	13	19
	%	22.1	52.8	10.0	0.7	3.8	8.1	1.0	0.0	0.1	0.0	0.6	0.8
15. 教養、娯楽、スポーツ、ペット関連	人	753	512	903	34	36	114	18	7	4	1	4	17
	%	31.3	21.3	37.6	1.4	1.5	4.8	0.8	0.3	0.2	0.0	0.2	0.7
16. 書籍・雑誌	人	593	491	865	46	96	218	22	2	3	1	12	56
	%	24.7	20.4	36.0	1.9	4.0	9.1	0.9	0.1	0.1	0.0	0.5	2.3
17. 旅行	人	756	211	1336	27	12	37	6	5	6	1	4	3
	%	31.4	8.8	55.6	1.1	0.5	1.5	0.3	0.2	0.2	0.0	0.2	0.1
18. 理髪料、パーマ・カット代等	人	389	1214	534	22	21	178	14	2	0	1	19	9
	%	16.2	50.5	22.2	0.9	0.9	7.4	0.6	0.1	0.0	0.0	0.8	0.4
19. 化粧品	人	693	376	951	33	81	227	14	2	2	1	9	14
	%	28.8	15.7	39.6	1.4	3.4	9.4	0.6	0.1	0.1	0.0	0.4	0.6
20. 仕送り・こづかい・家族への贈与	人	1422	744	63	7	6	49	3	24	58	1	13	13
	%	59.2	31.0	2.6	0.3	0.2	2.0	0.1	1.0	2.4	0.0	0.6	0.5
21. 仕送り・こづかい・家族への贈与を除く個人間送金	人	1594	411	53	4	8	139	7	43	118	1	11	14
	%	66.3	17.1	2.2	0.2	0.3	5.8	0.3	1.8	4.9	0.0	0.5	0.6
22. その他サービス料（家事サービス、被服関連サービス等）	人	1857	239	219	10	8	30	3	3	10	1	9	14
	%	77.3	9.9	9.1	0.4	0.3	1.2	0.1	0.1	0.4	0.0	0.4	0.6

※1 Suica 等交通系電子マネー、楽天 Edy、nanaco、WAON 等

※2 PayPay、楽天ペイ、LINE Pay、au PAY 等

※3 Apple Pay、Google Pay、iD、QUICPay 等

※※ETC カードを利用した場合にはクレジットカード、また、ETC パーソナルカードを利用した場合は、デビットカードとお答えください。

Q17. 定期的に支払いが生じる、以下のサービス料金をあなたはどのような手段で支払いましたか。直近の支払いについてお答えください。

※PayPay等、QRコードを読み込んで支払った場合は、QRコード決済とお答えください。(それぞれひとつずつ)

		支払っていない	現金(代金引換・現金振込を含む)	クレジットカード	デビットカード	プリペイド(前払い)式の電子マネー(※1)	QRコード・バーコード決済(※2)	スマホやスマートウォッチによるタッチ決済(※3)	ATM・銀行窓口にてキャッシュカード等で支払先の口座に振込	口座から自動引落し	給与天引き	インターネットバンキングにて支払先の口座に振込	その他の方法で現金を利用	その他の方法で現金以外の方法を利用
1. 授業料(保育サービスを含む)	人	1947	124	92	4	1	7	2	33	167	0	17	3	5
	%	81.0	5.2	3.9	0.2	0.0	0.3	0.1	1.4	6.9	0.0	0.7	0.1	0.2
2. 家賃・管理費(共益費を含む)	人	1266	226	170	7	0	6	3	50	583	16	61	5	8
	%	52.7	9.4	7.1	0.3	0.0	0.3	0.1	2.1	24.3	0.7	2.6	0.2	0.3
3. 電気代	人	448	112	1090	12	3	30	2	29	657	3	4	8	6
	%	18.6	4.7	45.3	0.5	0.1	1.2	0.1	1.2	27.4	0.1	0.2	0.3	0.2
4. ガス代	人	729	135	829	8	3	21	3	24	629	4	6	6	6
	%	30.3	5.6	34.5	0.3	0.1	0.9	0.1	1.0	26.2	0.2	0.3	0.3	0.3
5. 上下水道代	人	487	205	599	7	16	52	5	40	958	6	15	6	7
	%	20.3	8.5	24.9	0.3	0.7	2.2	0.2	1.7	39.9	0.3	0.6	0.3	0.3
6. 通勤・通学定期券代	人	1689	158	417	8	70	11	17	3	12	6	1	3	7
	%	70.3	6.6	17.3	0.3	2.9	0.5	0.7	0.1	0.5	0.3	0.0	0.1	0.3
7. 駐車場代金	人	1663	299	140	6	11	9	5	23	201	2	31	5	8
	%	69.2	12.4	5.8	0.3	0.4	0.4	0.2	1.0	8.4	0.1	1.3	0.2	0.3
8. スマホ・携帯電話等の利用料	人	253	82	1600	27	0	13	7	18	388	1	5	4	5
	%	10.5	3.4	66.6	1.1	0.0	0.5	0.3	0.8	16.2	0.0	0.2	0.2	0.2
9. 塾、習い事月謝	人	1926	163	165	6	2	7	4	8	107	1	5	6	5
	%	80.1	6.8	6.9	0.2	0.1	0.3	0.2	0.3	4.4	0.0	0.2	0.3	0.2
10. NHK放送受信料(BSを含む)	人	844	100	769	6	1	11	4	27	617	1	4	6	14
	%	35.1	4.2	32.0	0.3	0.1	0.5	0.2	1.1	25.7	0.0	0.2	0.2	0.6
11. その他放送受信料、インターネット接続料	人	616	66	1223	21	2	7	4	18	433	1	3	3	7
	%	25.7	2.7	50.9	0.9	0.1	0.3	0.2	0.8	18.0	0.0	0.1	0.1	0.3

※1 Suica等交通系電子マネー、楽天Edy、nanaco、WAON等

※2 PayPay、楽天ペイ、LINE Pay、au PAY等

※3 Apple Pay、Google Pay、iD、QUICPay等

Q18. 時折支払いが発生するような、以下の商品やサービスについて、あなたは過去五年の間に購入しましたか。購入した場合、どの手段で支払いしましたか。複数回購入した場合には、直近の支払いについてお答えください。

※PayPay 等、QR コードを読み込んで支払った場合は、QR コード決済とお答えください。また、ネットでの購入の場合は、クレジットカード、口座振り込みなど、最終的な決済手段をお答えください。(それぞれひとつずつ)

		支払っていない	現金（代金引換・現金振込を含む）	クレジットカード	デビットカード	プリペイド（前払い）式の電子マネー（※1）	QRコード・バーコード決済（※2）	スマホやスマートウォッチによるタッチ決済（※3）	ATM・銀行窓口にてキャッシュカード等で支払先の口座に振込	インターネットバンキングにて支払先の口座に振込	NFT・暗号資産	その他の方法で現金を利用	その他の方法で現金以外の方法を利用
1. 住宅設備修繕・維持	人	1464	391	347	9	5	9	1	76	82	0	8	12
	%	60.9	16.3	14.4	0.4	0.2	0.4	0.0	3.2	3.4	0.0	0.3	0.5
2. 家電	人	445	206	1600	47	20	54	2	10	10	0	2	6
	%	18.5	8.6	66.6	2.0	0.8	2.3	0.1	0.4	0.4	0.0	0.1	0.3
3. 家具、寝具、室内装飾品（照明器具、じゅうたん、カーテン等）	人	694	225	1354	41	18	46	4	4	8	0	4	4
	%	28.9	9.4	56.4	1.7	0.7	1.9	0.2	0.2	0.3	0.0	0.2	0.2
4. 自動車、自転車等車両購入費	人	1259	410	496	12	1	21	2	72	85	0	21	25
	%	52.4	17.1	20.7	0.5	0.0	0.9	0.1	3.0	3.5	0.0	0.9	1.0
5. お布施、冠婚葬祭関連費用	人	1007	1287	57	4	2	8	1	10	5	0	19	2
	%	41.9	53.6	2.4	0.2	0.1	0.3	0.0	0.4	0.2	0.0	0.8	0.1

※1 Suica 等交通系電子マネー、楽天 Edy、nanaco、WAON 等

※2 PayPay、楽天ペイ、LINE Pay、au PAY 等

※3 Apple Pay、Google Pay、iD、QUICPay 等

Q19. 以下の保険料・税金を、あなたはどのような手段で支払いましたか。直近の支払いについてお答えください。

※PayPay 等、QRコードを読み込んで支払った場合は、QRコード決済とお答えください。(それぞれひとつずつ)

	支払っていない	現金(代金引換・現金振込を含む)	クレジットカード	デビットカード	プリペイド(前払い)式の電子マネー(※1)	QRコード・バーコード決済(※2)	スマホやスマートウォッチによるタッチ決済(※3)	ATM・銀行窓口にてキャッシュカード等で支払先の口座に振込	口座から自動引落し	給与天引き	インターネットバンキングにて支払先の口座に振込	その他の方法で現金を利用	その他の方法で現金以外の方法を利用	
1. 火災・地震保険料	人	873	173	583	7	3	5	6	47	639	17	29	12	7
	%	36.3	7.2	24.3	0.3	0.1	0.2	0.2	2.0	26.6	0.7	1.2	0.5	0.3
2. 自動車等保険料	人	944	159	766	7	5	16	6	26	412	27	23	7	5
	%	39.3	6.6	31.9	0.3	0.2	0.7	0.3	1.1	17.2	1.1	1.0	0.3	0.2
3. 民間会社の医療保険料	人	867	175	601	8	6	5	5	16	642	60	7	3	7
	%	36.1	7.3	25.0	0.3	0.3	0.2	0.2	0.7	26.7	2.5	0.3	0.1	0.3
4. 貯蓄型保険料	人	1750	78	224	2	3	3	5	10	280	32	7	3	5
	%	72.8	3.2	9.3	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4	11.6	1.3	0.3	0.1	0.2
5. 社会保険料(年金保険料や健康保険料)	人	530	306	168	2	16	32	6	30	510	706	14	19	64
	%	22.1	12.7	7.0	0.1	0.7	1.3	0.3	1.2	21.2	29.4	0.6	0.8	2.6
6. 所得税	人	595	322	81	2	4	26	5	36	394	810	24	21	83
	%	24.8	13.4	3.4	0.1	0.2	1.1	0.2	1.5	16.4	33.7	1.0	0.9	3.4
7. 住民税	人	549	369	83	3	9	47	6	43	417	753	25	22	79
	%	22.8	15.4	3.4	0.1	0.4	1.9	0.2	1.8	17.3	31.3	1.0	0.9	3.3
8. その他の税金	人	899	446	125	7	23	93	5	55	401	234	34	23	58
	%	37.4	18.6	5.2	0.3	1.0	3.9	0.2	2.3	16.7	9.7	1.4	1.0	2.4

※1 Suica 等交通系電子マネー、楽天 Edy、nanaco、WAON 等

※2 PayPay、楽天ペイ、LINE Pay、au PAY 等

※3 Apple Pay、Google Pay、iD、QUICPay 等

Q20. 以下のサービスについて、あなたは、過去一年の間に利用しましたか。利用した場合、どの手段で支払いましたか。複数回購入した場合には、直近の支払いについてお答えください。

※PayPay 等、QRコードを読み込んで支払った場合は、QRコード決済とお答えください。(それぞれひとつずつ)

		利用していない	現金(代金引換・現金振込を含む)	クレジットカード	デビットカード	プリペイド(前払い)式の電子マネー(※1)	QRコード・バーコード決済(※2)	スマホやスマートウォッチによるタッチ決済(※3)	ATM・銀行窓口にてキャッシュカード等で支払先の口座に振込	インターネットバンキングにて支払先の口座に振込	NFT・暗号資産	その他の方法で現金を利用	その他の方法で現金以外の方法を利用
1. シェアリング(カーシェア、クラウドファンディング等)	人	1464	391	347	9	5	9	1	76	82	0	8	12
	%	60.9	16.3	14.4	0.4	0.2	0.4	0.0	3.2	3.4	0.0	0.3	0.5
2. 有料のオンライン娯楽サービス(動画・音楽の定額配信サービス、電子書籍・雑誌・コミックの定額配信サービス等)	人	445	206	1600	47	20	54	2	10	10	0	2	6
	%	18.5	8.6	66.6	2.0	0.8	2.3	0.1	0.4	0.4	0.0	0.1	0.3

※1 Suica 等交通系電子マネー、楽天 Edy、nanaco、WAON 等

※2 PayPay、楽天ペイ、LINE Pay、au PAY 等

※3 Apple Pay、Google Pay、iD、QUICPay 等

Q21. あなたは、「CBDC」という言葉を知っていますか。(ひとつだけ)

	知っている	聞いたことはあるが 内容はよくわからな い	知らない
人	70	163	2170
%	2.9	6.8	90.3

Q22. 2023年4月から給与を電子マネーで受け取ることができるようになりました。あなたは給与の一部または全てを、現金の代わりに電子マネーで受け取りたいと思いますか。(ひとつだけ)

	全額受け取りたいと 思う	一部受け取りたいと 思う	受け取りたいとは思 わない	そもそも、給与の受 け取りはない
人	52	201	1309	841
%	2.2	8.4	54.5	35.0

Q23. あなたは何種類のポイントサービスを利用していますか。(ひとつだけ)

	利用していな い	1種類	2~4種類	5~9種類	10種類以上	把握していな い
人	33	88	1330	685	140	126
%	1.4	3.7	55.3	28.5	5.8	5.3

Q24. あなたは複数の加盟店・企業等が連携する共通ポイントサービス(楽天ポイント、PayPay ポイント、d ポイント等)を利用していますか。航空会社のマイレージ等個別企業によるポイントサービスは含みません。(ひとつだけ)

	よく利用している	ときどき利用してい る	ほとんど利用してい ない	全く利用していない
人	1259	905	124	115
%	52.4	37.7	5.2	4.8

Q25. あなたはポイントに関して、どのような考えを持っていますか。(いくつでも)

	ポイントサー ビスが好き	ポイントサー ビスの内容に ついて詳しく 知っている	キャッシュ バック感覚で ポイントを貯 めている	節約意識から ポイントを貯 めている	ポイントカー ドの有無でお 店を選ぶこと が多い	ポイントを貯 める時には交 換したい商品 や金額の目標 がある	ポイントキャ ンペーンでは いつもより高 い商品を選ん だりまとめ買 いしたりする	ポイントが貯 まることが楽 しい
人	1100	308	987	959	416	187	252	1083
%	45.8	12.8	41.1	39.9	17.3	7.8	10.5	45.1

	ポイントサー ビスがあれば 必ず使う	利用するポイ ントサービス は集約させて いる	貯まったポイ ントを有効活 用している	貯まったポイ ントを交換す ることが楽し い	貯まったポイ ントは自分の 好きなものに 使うことが多 い	ポイントサー ビスを意識し ていない
人	750	429	999	447	522	183
%	31.2	17.9	41.6	18.6	21.7	7.6

Q26. 貯まったポイントをどのように使っていますか。(いくつでも)

	支払時の値引きに使用	景品またはサービスとの交換	現金、金券類との交換	抽選券と交換	社会貢献等の寄付と交換	金融商品への投資に使用	その他
人	2048	546	896	45	97	216	60
%	100.0	26.7	43.8	2.2	4.7	10.5	2.9

Q27. 自宅や職場等から普段利用する最寄りの銀行や ATM(コンビニ等含む)までの移動時間はどれくらいかかりますか。(ひとつだけ)

	0~5分	6~10分	11~30分	31~60分	61分以上	普段はATM、銀行を利用しない
人	823	912	510	38	4	116
%	34.3	38.0	21.2	1.6	0.2	4.8

Q28. 次の言葉があなた自身にどのくらいあてはまるかについて、もっとも適切なものを選んでください。(それぞれひとつずつ)

		全く違うと思う	おおよそ違うと思う	少し違うと思う	どちらでもない	少しそう思う	まあそう思う	強くそう思う
1. 人生で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	人	62	123	209	465	683	700	161
	%	2.6	5.1	8.7	19.4	28.4	29.1	6.7
2. 社会をよりよくするため、私は社会における問題に関与したい	人	168	216	309	769	589	288	65
	%	7.0	9.0	12.8	32.0	24.5	12.0	2.7
3. 活発で外向的だと思う	人	383	416	474	547	304	215	64
	%	15.9	17.3	19.7	22.8	12.6	9.0	2.7
4. 他人に不満を持ち、もめごとを起こしやすいと思う	人	481	714	466	458	165	78	41
	%	20.0	29.7	19.4	19.0	6.9	3.2	1.7
5. しっかりしていて、自分に厳しいと思う	人	185	243	450	793	444	206	82
	%	7.7	10.1	18.8	33.0	18.5	8.6	3.4
6. 心配性で、うろたえやすいと思う	人	183	275	367	495	551	317	215
	%	7.6	11.5	15.3	20.6	22.9	13.2	8.9
7. 新しいことが好きで、変わった考えを持つと思う	人	184	274	433	724	498	212	78
	%	7.7	11.4	18.0	30.1	20.7	8.8	3.3
8. アテンションチェックの設問です。実際のご意思に関わらず、この項目では必ず「おおよそ違うと思う」を選択してください。	人	0	2,403	0	0	0	0	0
	%	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9. ひかえめで、おとなしいと思う	人	135	258	431	635	495	329	120
	%	5.6	10.8	17.9	26.4	20.6	13.7	5.0
10. 人に気がつかう、やさしい人間だと思う	人	82	110	223	655	793	434	106
	%	3.4	4.6	9.3	27.3	33.0	18.1	4.4
11. だらしくなく、うっかりしていると思う	人	222	382	464	549	444	217	125
	%	9.2	15.9	19.3	22.9	18.5	9.0	5.2
12. 冷静で、気分が安定していると思う	人	97	166	345	768	562	375	91
	%	4.0	6.9	14.4	32.0	23.4	15.6	3.8
13. 発想力に欠けた、平凡な人間だと思う	人	109	194	402	649	458	377	214
	%	4.5	8.1	16.7	27.0	19.0	15.7	8.9